

# HZL-HT720

## 取扱説明書



注意

安全にご使用していただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧になれますように保管してください。



この度は、本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用になる前に「安全にご使用していただくために」をよくお読みいただき、この取扱説明書で機能や使い方を

十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。

お読みになった後はいつでもご覧になれるところに保証書とともに保管してください。

製品改良のため、本体の色・デザイン・仕様など予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

取扱説明書は、改善のため変更することがあります。



上記の取扱説明書は、インターネットで最新版を公開しています。（取扱説明書のほか、お使いになるうえでの注意事項を公開しています）

[https://www.juki.co.jp/household\\_ja/vc-files/doc/pdf/HZL-HT720\\_manual.pdf](https://www.juki.co.jp/household_ja/vc-files/doc/pdf/HZL-HT720_manual.pdf)

## 安全にご使用していただくために

この取扱説明書および製品に使われている表示や絵文字は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになられる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

警告表示は以下のように使い分けています。

 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。






絵文字の意味は次のとおりです。

	注意すること		感電の危険があります		火災の危険があります
	手などへの傷害の危険があります		してはいけないこと		分解、改造をしないでください
	針の下に指を入れないでください		必ず行うこと		電源プラグをコンセントから抜いてください






このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。  
このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。












This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.




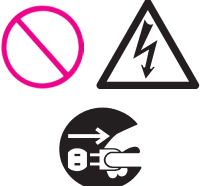







## ⚠ 警告

	一般家庭用交流電源 100V の電圧以外では、絶対に使用しないでください。
	<p>下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ミシンのそばを離れるとき。</li> <li>● ミシンをご使用になったあと。</li> <li>● ミシンのご使用中に停電したとき。</li> <li>● ミシンをお手入れするとき。</li> <li>● ミシンを移動させるとき。</li> <li>● 接触不良・断線などで正常に動作しないとき。</li> <li>● 雷が鳴りはじめたとき。</li> </ul>
	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
	<p>直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロン、火の消えていないたばこ、ろうそくなど火の気のあるもののそばや温度の高いところでは使用しないでください。ミシン内部の温度が上がったり、電源コードの皮膜等が溶けて火災・感電の原因となります。</p> <p>ミシンの使用温度は 5℃～ 40℃です。</p>
	スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどの原因となります。

## ⚠ 注意

	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。
	長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
	電源プラグやフットコントローラーを抜くときは、まず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。コード部分を引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。

	<p>電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお買い上げの販売店にご連絡ください。</p>
	<p>ミシン本体の換気口をふさがないようにください。換気口は必ず壁から 30 cm 以上離して使用し、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。</p>
	<p>ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。</p>
	<p>以下の場所に設置、保管しないでください。故障の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 温度が著しく高くなる場所</li> <li>• 温度が著しく低くなる場所</li> <li>• 急激に温度が変化する場所</li> <li>• 湿気、湯気の多い場所</li> <li>• 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所</li> <li>• 野外や直射日光の当たる場所</li> <li>• ほこり、油煙の多い場所</li> </ul>
	<p>フットコントローラーの上に物をのせないでください。けが、故障の原因となります。</p>
	<p>お客様ご自身での分解、改造はしないでください。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は販売店にご依頼ください。</p>
	<p>ミシンを操作するときにはかま部などカバー類を閉じてください。けがの原因となります。</p>
	<p>ミシンの縫製中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車（ブリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。けがの原因となります。</p>
	<p>曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。</p>
	<p>縫製中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。けが、針折れの原因になります。</p>
	<p>お子様の玩具としては使用しないでください。お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してご使用してください。</p>

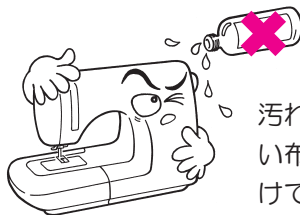
	<p>下記のことを行うときは、電源スイッチを切り取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。</li> <li>● 下糸をセットするとき。</li> </ul>
	<p>取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。</p>
	<p>ミシンやフットコントローラーに下記の異常があるときは、速やかに使用を停止し、販売店にて点検、修理、調整をお受けください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 煙が出ている。</li> <li>● 正常に作動しないとき。</li> <li>● 落下などにより破損したとき。</li> <li>● 水に濡れたとき。</li> <li>● 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。</li> <li>● 異常な臭い、音がするとき。</li> <li>● 異物が入ったとき。</li> </ul>
	<p>ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万が一異物が入った場合はミシンの使用をやめてお買い上げの販売店にご連絡ください。</p>
	<p>針の下に指などを入れないでください。けがをするおそれがあります。</p>
	<p>ミシン本体には、取扱説明書に記載されている正規部品をご使用ください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。</p>
	<p>ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか、破棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。</p>
	<p>ミシン本体は、必ずハンドル（取っ手）を持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、けがの原因になります。</p>
	<p>リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。</p>
	<p>布地と糸と針の組み合わせは、「布地に合った糸と針の選び方」の説明表に従って適切な組み合わせでご使用ください。 組み合わせが適切でない場合、特に厚い布地（デニムなど）を細い針（11番以下）でぬうと針が折れ、思わぬ怪我をする可能性があります。</p>
	<p>上糸、下糸などに関する操作については取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。取扱を誤ると縫製中に糸がらみなどを発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。</p>

## その他のご注意

- 直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



- シンナーなどの溶剤でふかないでください。

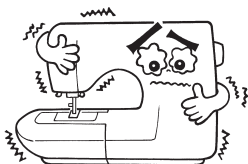


汚れたときは、やわらかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

このミシンはマイクロコンピューター、半導体電子部品や精密な電子回路を内蔵していますので、下記の状態がおこる場合があります。ご注意ください。

- 5℃～40℃の範囲でお使いください。

温度がいちじるしく低い場合、正常に動かないことがあります。



- 長時間のゆっくりぬいを続ける、あるいは高温環境下で長時間ぬい続けると異常発熱を防ぐため、安全装置が働き、ミシンが止まるようになっています。

約10分で安全装置が復帰して正常にご使用できます。



QRコードから操作サポートビデオにアクセスすることができます。

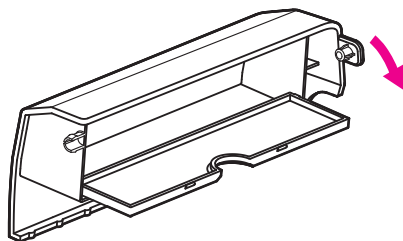
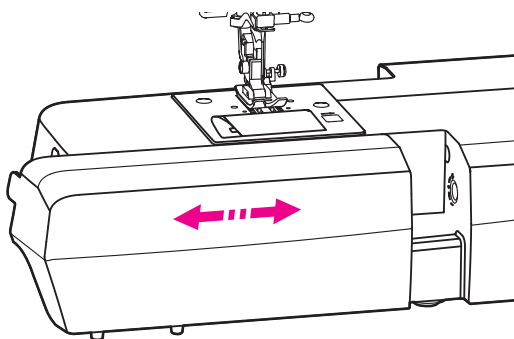
<https://www.youtube.com/playlist?list=PL4P7rfeya4j8WKjoQrtafMhac8NSuFI6>

# もくじ

安全にご使用していただくために.....	1	直線ぬい.....	26
補助ベッド・付属品.....	1	ジグザグぬい.....	27
各部の名称.....	2	基本ぬい(直線ぬいとジグザグぬい).....	28
電源のつなぎ方.....	3	伸縮ぬい.....	31
押え上げレバー.....	4	伸縮地とゴムテープ.....	32
押え圧調整つまみ.....	4	裁ち目かがりぬい.....	33
下糸の巻き方.....	5	ブラインドステッチ(まつりぬい).....	34
ボビンのセット.....	8	ボタン穴かがりぬい.....	35
上糸のかけ方.....	9	つくろいぬい.....	39
下糸の引き上げ方.....	12	アイレット.....	41
針の取り外し方と取り付け方.....	13	ボタン付け.....	42
布地に適した針と糸の選び方.....	14	ファスナー付け.....	43
押えの取り替え方.....	15	飾りぬい.....	45
ドロップフィードつまみの使い方.....	16	キルティング.....	46
上糸調子の合わせ方.....	17	パッチワーク.....	47
各部の操作とはたらき.....	18	ファゴティング.....	47
もようの選択.....	23	スカラップ.....	48
もよう一覧.....	24		
		ミシンのお手入れ.....	49
		警告機能.....	50
		フットコントローラー(別売品).....	51
		ワイドテーブル(別売品).....	52
		故障かな・・・というときは.....	53
		アフターサービスと保証.....	裏表紙
		仕様表.....	裏表紙

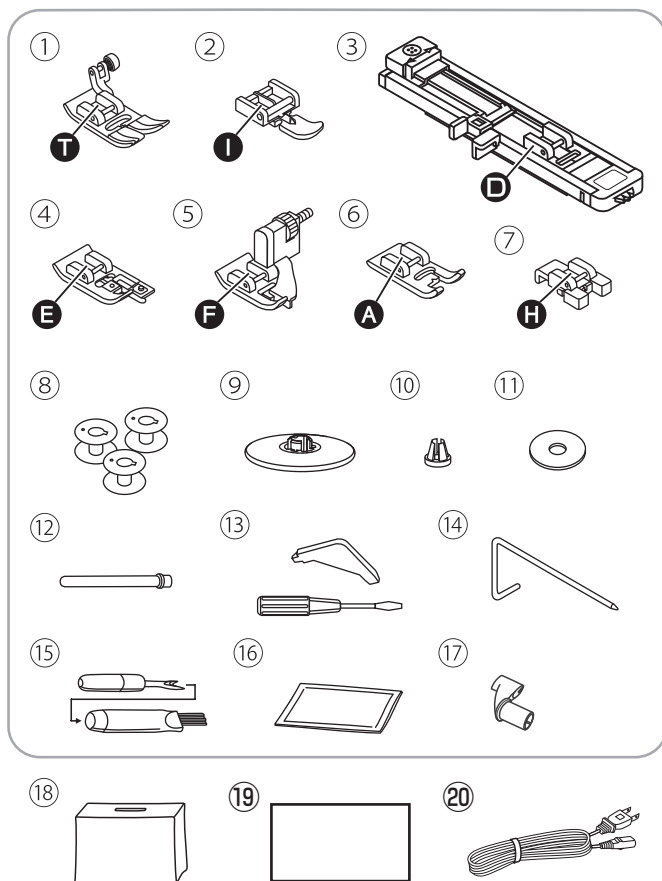


# 補助ベッド・付属品



補助ベッドは左に引くと外れます。  
取り付けは、補助ベッドとミシンの高さを  
合わせ、右にすべり込ませます。

付属品箱は、手前方向に開けてください。

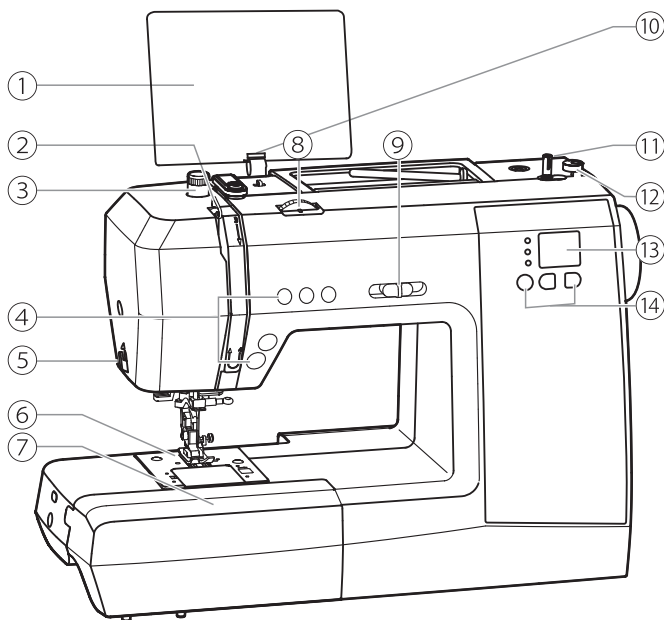


## ❖ 基本部品

(発泡内に収納されています)

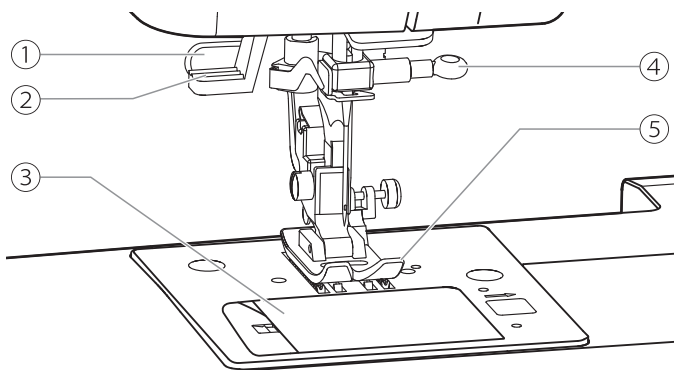
- ① 基本押え (本体に取り付けられています)
- ② ファスナー押え
- ③ ボタン穴かがり押え
- ④ 裁ち目かがり押え
- ⑤ ブラインドステッチ押え
- ⑥ サテン押え
- ⑦ ボタン付け押え
- ⑧ ボビン4個  
(うち1個はカマの中にあります)
- ⑨ 糸巻き当て座 (大)
- ⑩ 糸巻き当て座 (小)
- ⑪ 糸コマ座
- ⑫ 補助糸立棒
- ⑬ 三角ドライバー・ドライバー (小)
- ⑭ 棒定規
- ⑮ リッパー / ブラシ
- ⑯ 針パック (HA × 1 #14 3本)
- ⑰ もようプレートクリップ
- ⑱ ソフトケース
- ⑲ もようプレート
- ⑳ 電源コード

# 各部の名称



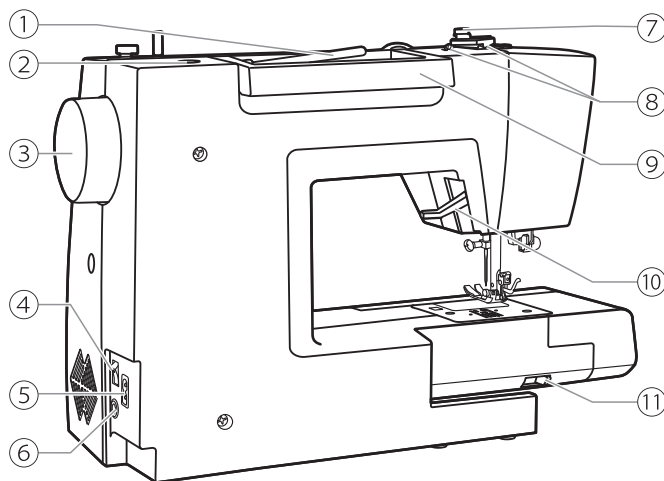
## ❖ 左側面・前面

- ① 模様プレート
- ② 天びん
- ③ 押え圧調整つまみ
- ④ 操作ボタン
- ⑤ 面部糸切り
- ⑥ 針板
- ⑦ 補助ベッド
- ⑧ 糸調子調節ダイヤル
- ⑨ スピードコントロールつまみ
- ⑩ 模様プレートクリップ
- ⑪ 糸巻き軸
- ⑫ ボビン押え
- ⑬ 表示画面
- ⑭ 各種操作ボタン



## ❖ 針まわり

- ① ボタン穴かがりレバー
- ② 糸通しレバー
- ③ かまカバー
- ④ 針止めねじ
- ⑤ 押え



## ❖ 右側面・背面

- ① 糸立棒
- ② 補助糸立棒取り付け穴
- ③ はずみ車
- ④ 電源スイッチ
- ⑤ 電源コード差し込み口
- ⑥ コントローラープラグ差し込み口
- ⑦ 糸案内台
- ⑧ 糸ガイド
- ⑨ 取っ手
- ⑩ 押え上げレバー
- ⑪ ドロップフィードつまみ

# 電源のつなぎ方



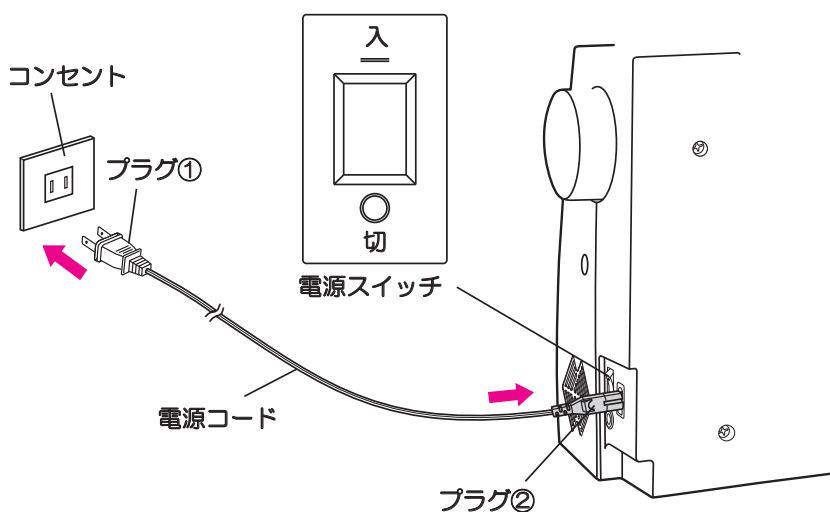
## 警告

感電、火災を防ぐために  
電源は必ずプラグ部分を持って抜き差ししてください。



## 注意

ケガ防止のために  
○ 使用中に糸がからんだり、ミシンが止まった場合には、電源スイッチを「○（切）」にしてください。  
○ ミシンを使用しないとき、ミシンから離れるときは、電源コードを外してください。



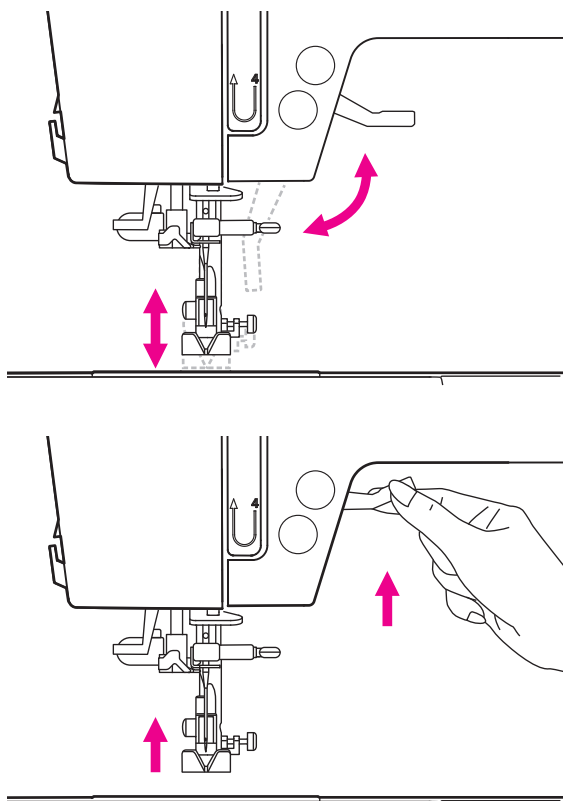
## 1 電源を入れます

- 電源コードを本体にセットします。
- 電源プラグ①を家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。
- 電源スイッチを「一（入）」にします。
- 電源を入れると、自動的に直線（中基線 1）が選ばれます。  
この状態で直線ぬいをすることができます。

## 2 電源を切ります

- ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。
- ミシンが止まっていることを確認します。
- 電源スイッチを「○（切）」にします。  
電源が切れ、ランプが消えます。
- 電源プラグ①を持ってコンセントから抜きます。

## 押え上げレバー

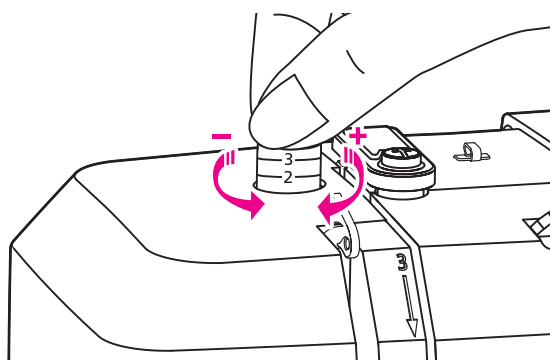


布地を押えたり、布地を引き出すときに押え上げレバーを使用して図のように上げ下げします。

布地を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布地を押えの下に入れやすくするため、押えをさらに上に上げることができます。

※ このときレバーは固定されません。手を放すとレバーは普通に上げた位置に戻ります。

## 押え圧調整つまみ



標準押え圧は「2」に設定されています。ミシンの押え圧力はあらかじめ設定されているため、特定の種類の生地（薄地または厚地）を縫製する場合を除き、変更する必要はありません。

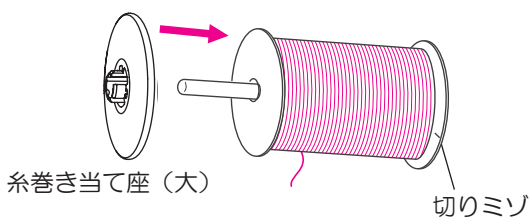
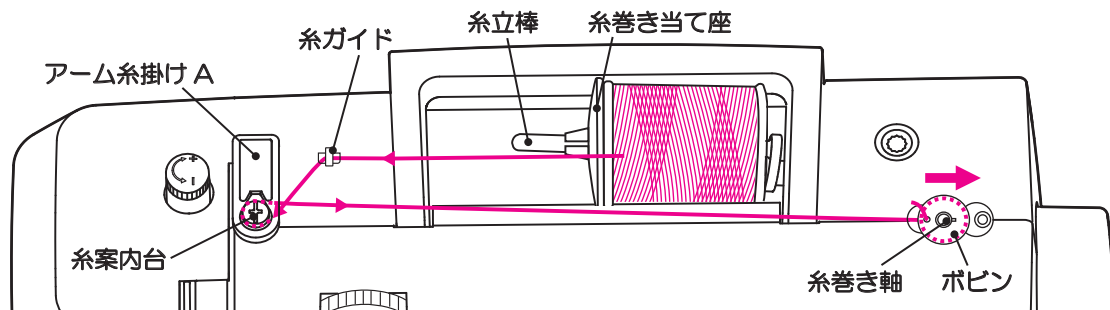
押え圧を調節する必要がある場合は、押え圧調節つまみを指で回します。

- 薄地をぬう場合：  
つまみを反時計方向に回すと押え圧力が緩くなり、つまみが上に移動し、圧力が下がります。つまみを回し続けると外れる可能性がありますのでご注意ください。
- 厚地をぬう場合：  
つまみを時計回りに回すと押え圧力が強くなり、つまみが下に移動し、圧力が上がります。つまみが動かせなくなったら一番下まで達していますので、それ以上回さないでください。

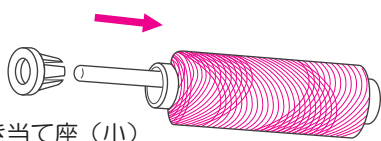
# 下糸の巻き方

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。

<p><b>注意</b></p>	<p>ケガ防止のために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 糸コマの向きや糸巻き当て座が正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、針折れの原因となります。</li> <li>○ ボビンを取り出すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。</li> </ul>
------------------	---



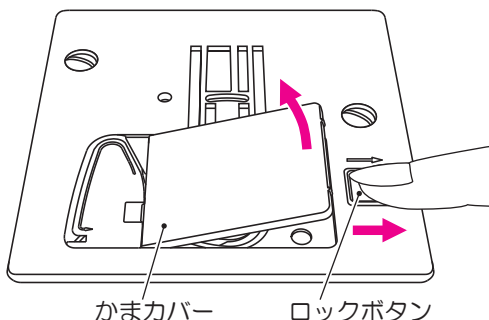
※ 糸コマに切りミソがあるときは、その部分を右側にしてセットしてください。

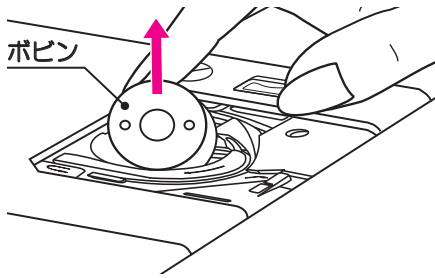


- 糸コマをセットします。  
糸立棒を軽くおこし、下糸用の糸コマを入れ、糸巻き当て座で糸コマを押えます。

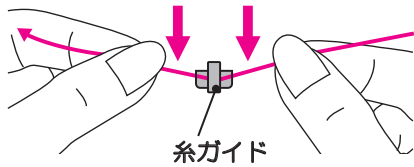
※ 小さい糸を使用するときは、糸巻き当て座を左図のように取り付けます。

- ロックボタンを右に動かし、かまカバーを開けます。

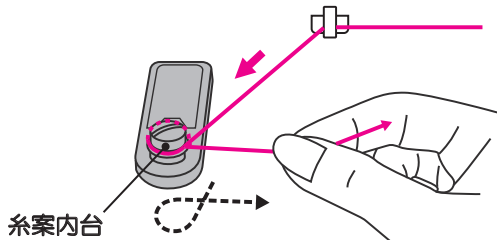




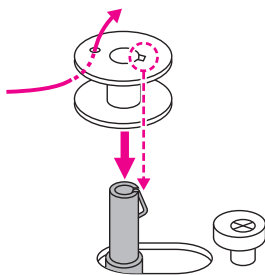
3. かまカバーを外し、ボビンを取り出します。



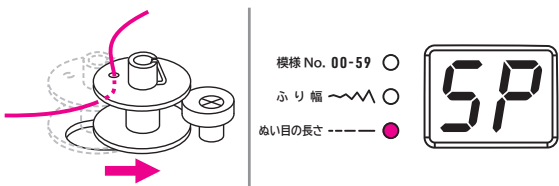
4. 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの後ろから手前に糸をかけます。



5. かけた糸端を更に引いて、糸案内台に右回りに糸をかけます。  
この時、糸案内台の皿の間にしっかりと糸が入るように糸を掛けてください。



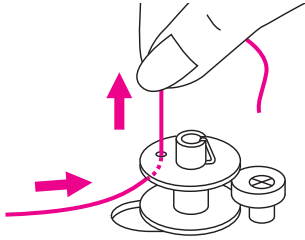
6. 糸案内台にかけた糸を引き出し、ボビンの穴に内から外に通します。ボビンを下糸巻き軸に差し込みます。



7. 軸にセットしたボビンを右側に押しします。  
※ ボビンを右側に押したとき、画面に「SP」と表示されます。  
左側に戻すと「SP」表示が消えます。



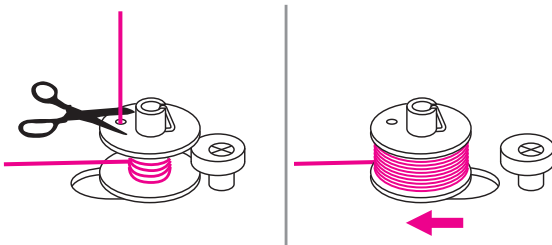
8. スピードコントロールつまみで糸を巻くスピードを調節します。



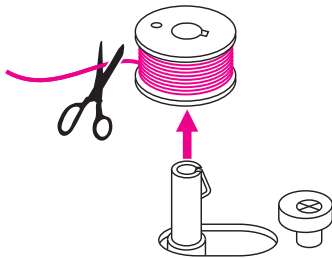
9. 糸の端を片手でしっかりと持ちます。



10. ボビンに通した糸端を持ったまま、スタート・ストップボタンを押して巻き始めます。



11. 少し糸を巻き、いったん止めて糸端を切り、もう一度スタートします。  
巻き終わるとボビンの回転が、ゆるやかになります。  
スタート・ストップボタンを押してミシンを止め、糸を切ります。  
ボビンに少量巻きたい時は、スタート・ストップボタンを押してご希望の巻き量で止めてください。  
下糸巻軸を左側に戻します。



12. 糸を切ってからボビンを引き出します。

**!** 注意

下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。  
下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。

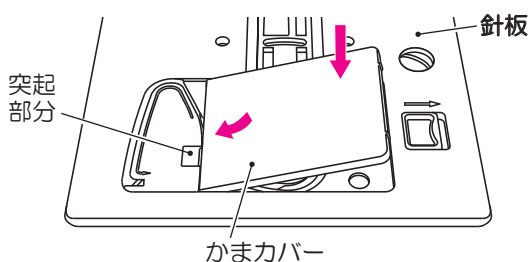
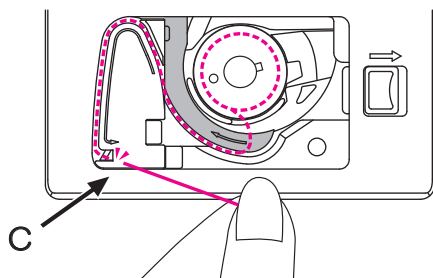
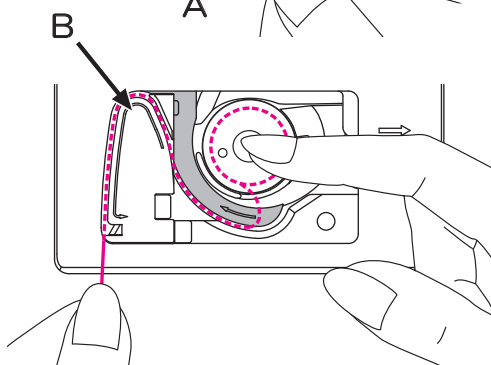
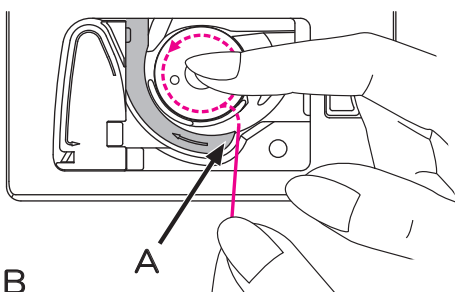
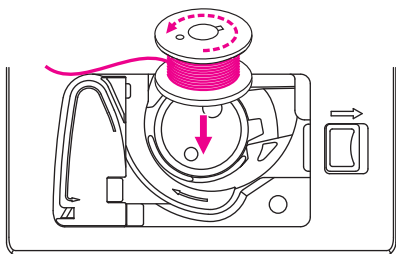


# ボビンのセット

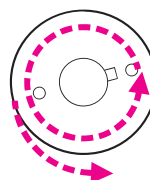


## 注意

ボビンを取り出すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



1. かまカバーをはずし、糸の端を出してかまの中に入れてボビンが左回りになるように入れます。



糸の方向

2. ボビンを指で押え、糸を図のように矢印方向に引き（A）のツノの下にあるスリットに糸を押し込み、その後（B）の位置までギュッとしっかりひっぱります。

※ 下糸がしっかり入っていない状態でぬうと、布地の上のぬい目がつたように一本線になることがあります。

3. 糸を矢印の方向に（B）の位置から（C）まで引いて、余分な糸を切ります。

4. かまカバーの左の突起部分を針板の下へ差し込み、右側を押え、カバーを閉じます。（下糸を引き上げる必要はありません）

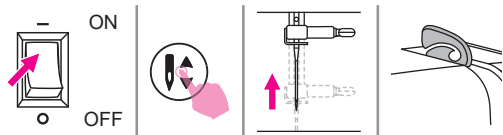
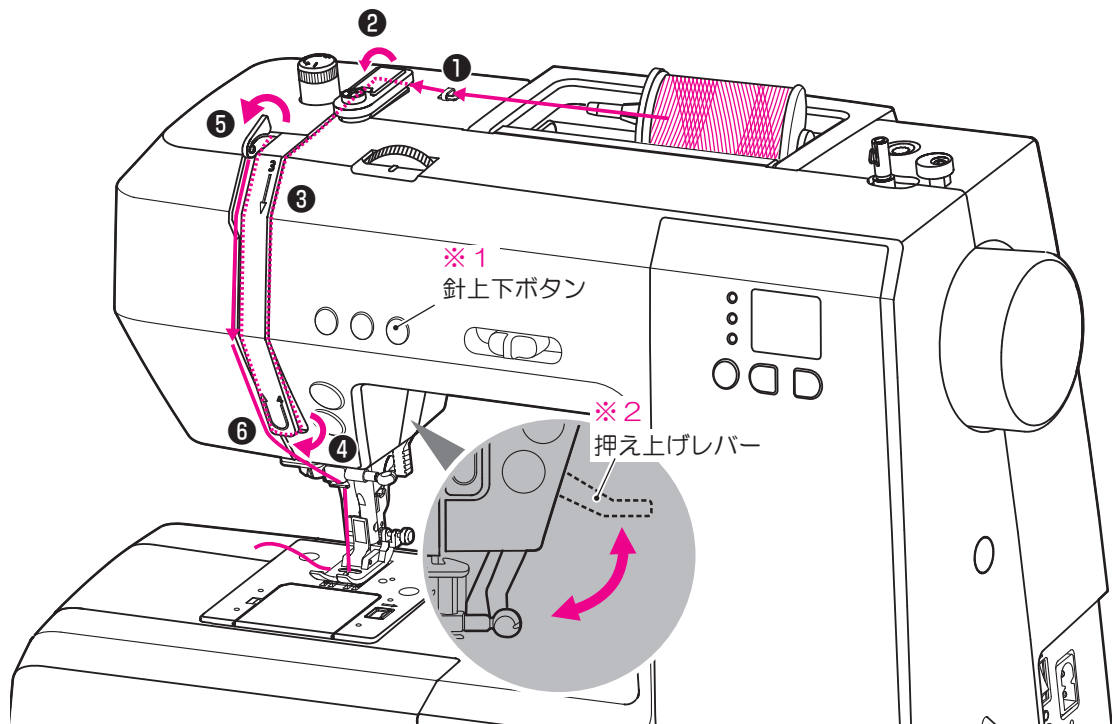


## 注意

ケガ防止のために  
ミシンを作動する際は、必ず  
かまカバーを閉めてください。



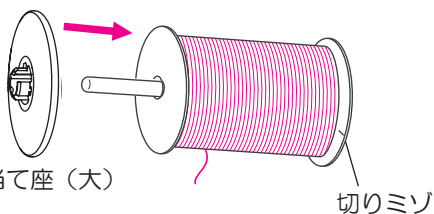
# 上系のかけ方



1. 電源を入れます。
2. 針上下ボタンを1回または2回押して針を上にあげます。(図※1)



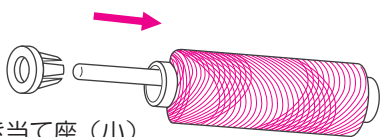
3. 押え上げレバーを上げます。(図※2)  
必ず押え上げレバーを上げてください。  
レバーを下げたまま上系のセットを行うと、  
布地の裏やカマにたくさん糸が出てから  
らむことがあります。



糸巻き当て座 (大)

切りミソ

※ 糸コマに切りミソがあるときは、  
その部分を右側にしてセットしてください。



糸巻き当て座 (小)

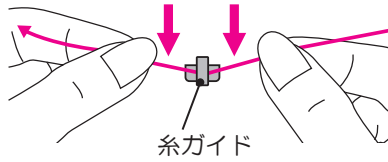
4. 糸コマをセットします。  
糸立棒を軽くおこし、糸コマを入れ、糸巻き  
当て座で糸コマを押えます。

※ 小さい糸を使用するときは、糸巻き当て座  
を左図のように取り付けます。

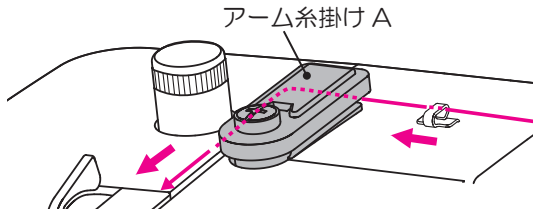


## 注意

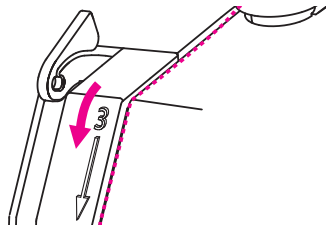
ケガ防止のために  
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



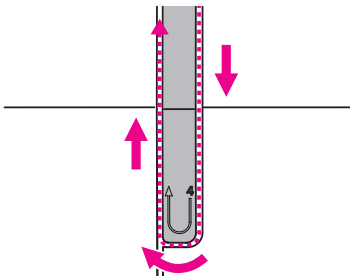
5. 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの後ろから手前に糸をかけます。



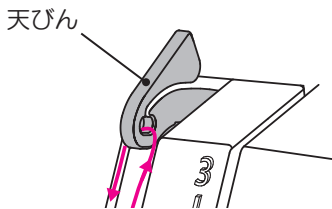
6. 通した糸をさらに引き出し、アーム系掛け A の後から糸を掛けます。



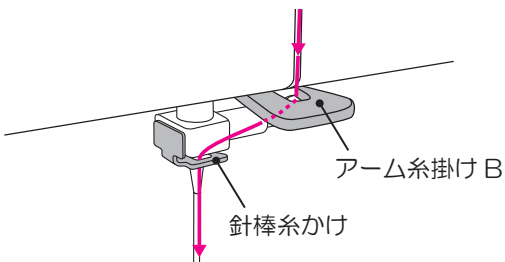
7. アーム系掛け A に掛けた糸をまっすぐ手前に引き、溝の中に入れて下に引いていきます。



8. 溝の終わりから左側の溝にそって上に引き上げていきます。



9. 天びんに、右から後ろへ回して、左手前に引き穴の奥までかけます。

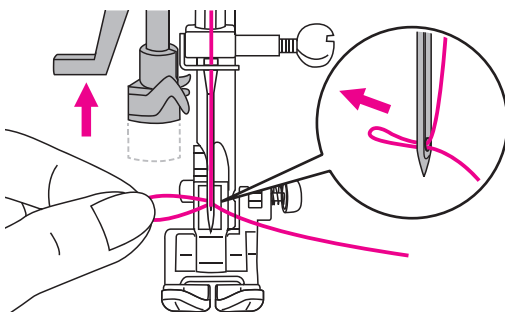
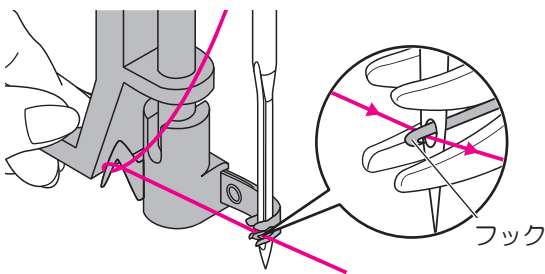
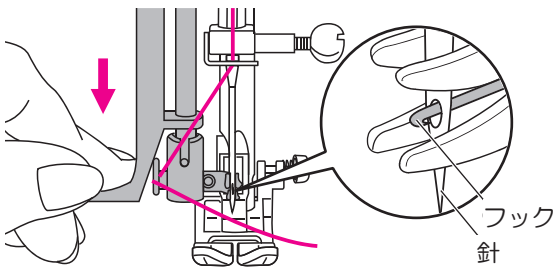
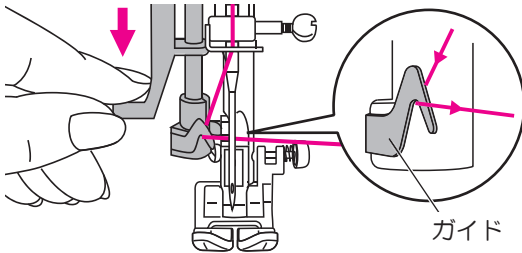
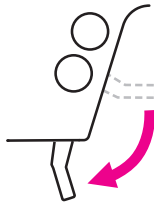


10. アーム系掛け B に糸を右側から掛け、続いて針棒系かけに、右から糸をかけ、針に前から後に通します。  
糸通しレバーを使って糸を針に通す方法は、次ページを参照してください。

**注意**

ケガ防止のために

- 糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないでください。
- ミシンが動いているときは糸通しレバーに手を触れないでください。  
糸通し装置がこわれるだけでなく、針が折れ、ケガのもとになります。



11. 押えを下げます。

針が一番上にあることを確かめます。

※ 針は 11 番、14 番、16 番が使えます。

※ 糸通しレバーは針が上にある状態で使用してください。

12. 糸通しレバーをかるく下げ、糸を糸通しのガイドにかけて、右に引きます。

13. レバーをいっぱいに下げます。

※ 糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

14. フックの下に糸をかけます。

15. 糸をかるく持ってレバーを放します。

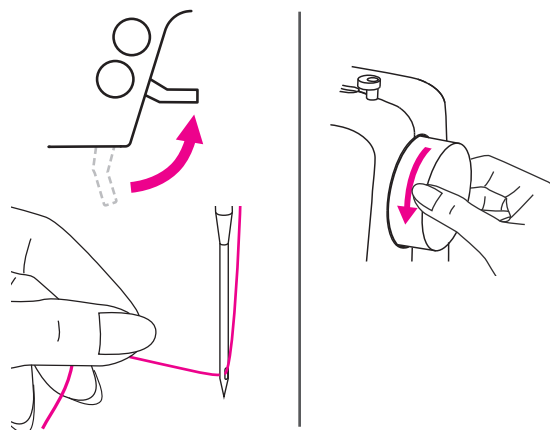
※ フックが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

針の後ろから輪になった糸を引き抜き、10cm くらい引き出しておきます。

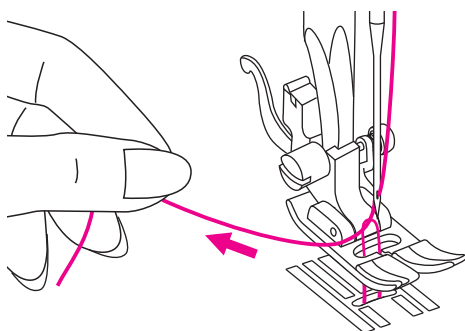
# 下糸の引き上げ方

このミシンは下糸を引き上げなくてもぬうことができますが、下糸を長くにとってぬい始めたいときは、下糸を引き上げておきます。

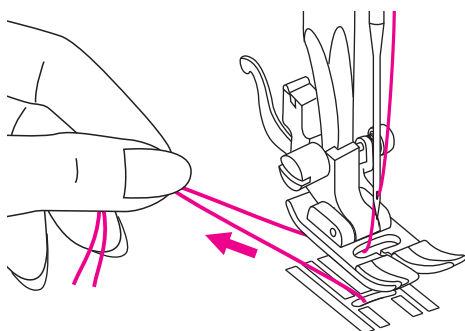
※ 下糸セット時の最後の糸切りはしないでください。



1. 押え上げレバーを上へ上げ、針に通した糸を左手で持ちます。
2. はずみ車を手前に回し、針を下げて下糸を引き上げます。




3. 上糸を軽く引き上げると下糸が引き出されます。



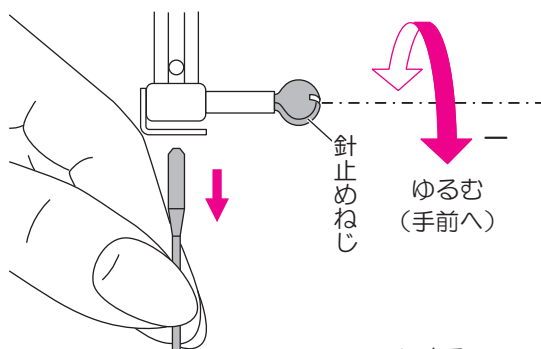
4. 上糸と下糸をそろえて押えの下から後ろに10cmほど出しておきます。

※ 基本ぬいは28ページ以降を参照ください。

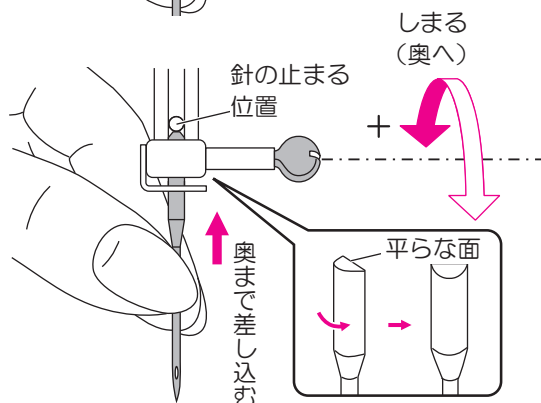
# 針の取り外し方と取り付け方

 <b>注意</b>	<p>ケガ防止のために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 曲がった針や針先がつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないください。</li> <li>○ 針は必ず家庭用ミシン針 (HAx1) をご使用ください。</li> <li>○ 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。</li> </ul>
---	--

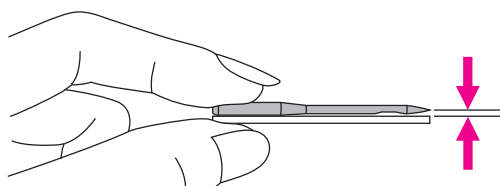
針は、布地や糸に合わせて選びます。次ページの「布地に適した針と糸の選び方」を参照してください。



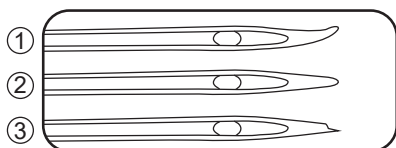
1. はずみ車を回して針を一番上に上げます。押え上げレバーを下にさげます。
2. 針止めねじを手前に回してゆるめ、針を下に引き抜きます。



3. 新しい針の裏面 (平らな面) を向こう側 (押え棒側) に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めねじをドライバーで締めます。







取り付け前に、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



針が次の状態の場合、問題が発生する可能性があります。

- ① 針が曲がっている場合
- ② 針先が丸くなっている場合
- ③ 針先が損傷している場合

## 布地に適した針と糸の選び方

布地の種類		糸の番号	針の番号
薄地	薄地ジョーゼット、オーガンジー、ボイル、絹布など	スパン系糸 90 (ポリエステル) 綿 80～100 絹 60～80	9～11 番 
普通地	ギンガム、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄手コーデュロイ、ベルベット、一般服地など	スパン系糸 60 (ポリエステル) 綿 50～80 絹 50	11～14 番 
厚地	ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイ、ジーンズなど	スパン系糸 60 (ポリエステル) 綿 40～50 絹 50	14～16 番 
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど	スパン系糸 60 (ポリエステル) ニット用糸 50	11～14 番 ニット用針 

- 糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- ニット用針は伸縮性のある布地や目がとびやすい布地に使用します。
- 購入時は、14 番の針がミシンに取り付けられています。

※ 綿や絹の糸は、経年劣化により切れやすくなります。

なるべく新しい糸をお使いください。(目安として製造より2年)

※ ナイロン透明糸およびメタリック糸、また手ぬい用の糸(キルト糸)などは使用しないでください。

〈オススメ〉

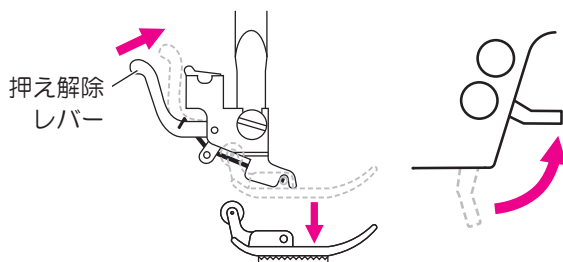
スパン系(素材:ポリエステル)の糸であれば、ほとんどの布地に対応でき、また長持ちします。

# 押えの取り替え方

## ⚠ 注意

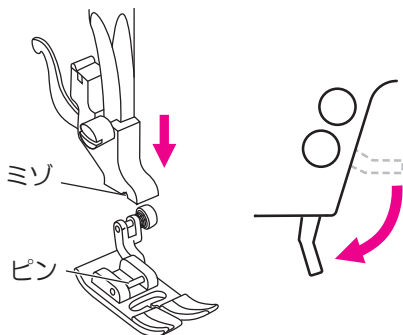
ケガ防止のために

- ものように適した押えを使用してください。
- 誤った押えを使用すると、針が押えに当たったり、曲がったりして危険です。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



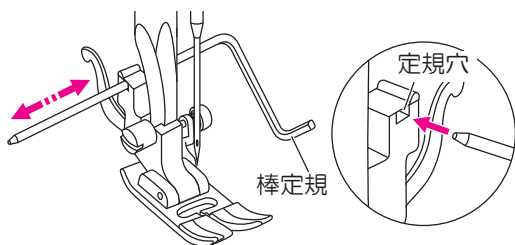
## ❖ 押えを取り外します

はずみ車を回し、針を上げます。  
押え上げレバーを上げ、押えを上げます。  
指先で押えホルダーのうしろにある、押え解除レバーを手前に押し、押えが外れます。



## ❖ 押えを取り付けます

交換したい押えのピン部分を、押えホルダーのミゾの真下に合わせます。  
静かに押え上げレバーを下げ、押えのピンを、押えホルダーのミゾに入れます。  
※ どの押えも、この要領で取り外し、または取り付けることができます。

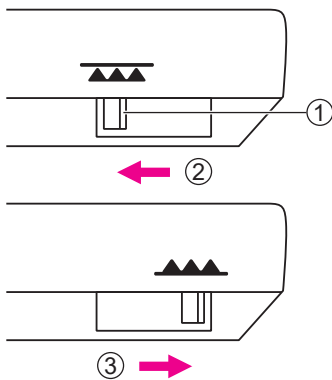
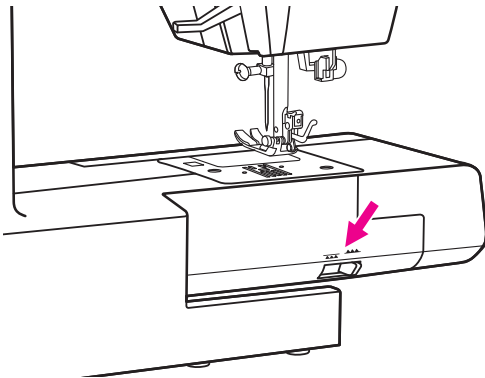


## ❖ 棒定規の付け方

棒定規は押えホルダーの定規穴に、図のように差し込みます。  
※ 棒定規は印の線や前にぬったステッチに平行にぬうときに使うと便利です。

# ドロップフィードつまみの使い方

本体背面下部に、送り歯を上げ下げできるドロップフィードつまみ①があります。

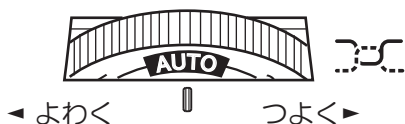


送り歯を針板上面より沈ませるには、針を上にした状態で、つまみをスライドして、②の方向にセットします。

送り歯を針板上面に上げるには、つまみをスライドして、③の方向にセットします。はずみ車を手前に回すと、送り歯が針板上面に上がってきます。

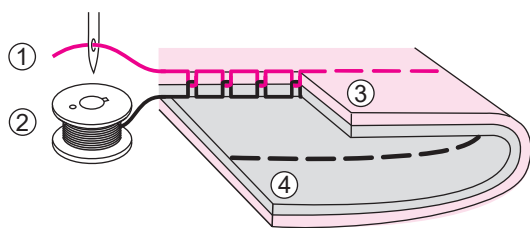


# 上糸調子の合わせ方



通常、糸調子調節ダイヤルを「AUTO」に合わせると正しい糸調子になるように調節されています。

布地や糸によって、糸調子がうまく取れない場合や、ギャザー寄せなどをするときには、糸調子調節ダイヤルを回して調節してください。

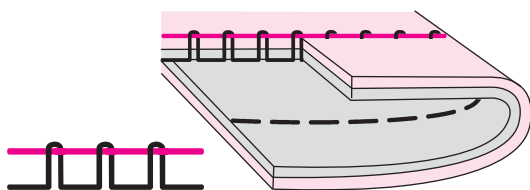


上糸と下糸が布地の中間で交差し、かつ、布地や糸がつれたり、たるんだりしていないのが正常です。

- ① 上糸
- ② 下糸
- ③ 表面
- ④ 裏面

## ●上糸が強い場合

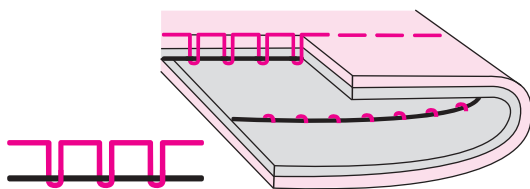
布地の表の糸が1本になっているときは、ボビンが正しくセットされていません。正しくセットし直してください。



または、上糸調子が強いので、糸調子調節ダイヤルを左の方向（◀よわく）に回し、ダイヤルの数字を小さくして糸調子を弱くしてください。

## ●上糸が弱い場合

布地の裏の糸が1本になっているときは、上糸調子が弱いので、糸調子調節ダイヤルを右の方向（▶つよく）に回し、ダイヤルの数字を大きくして糸調子を強くしてください。

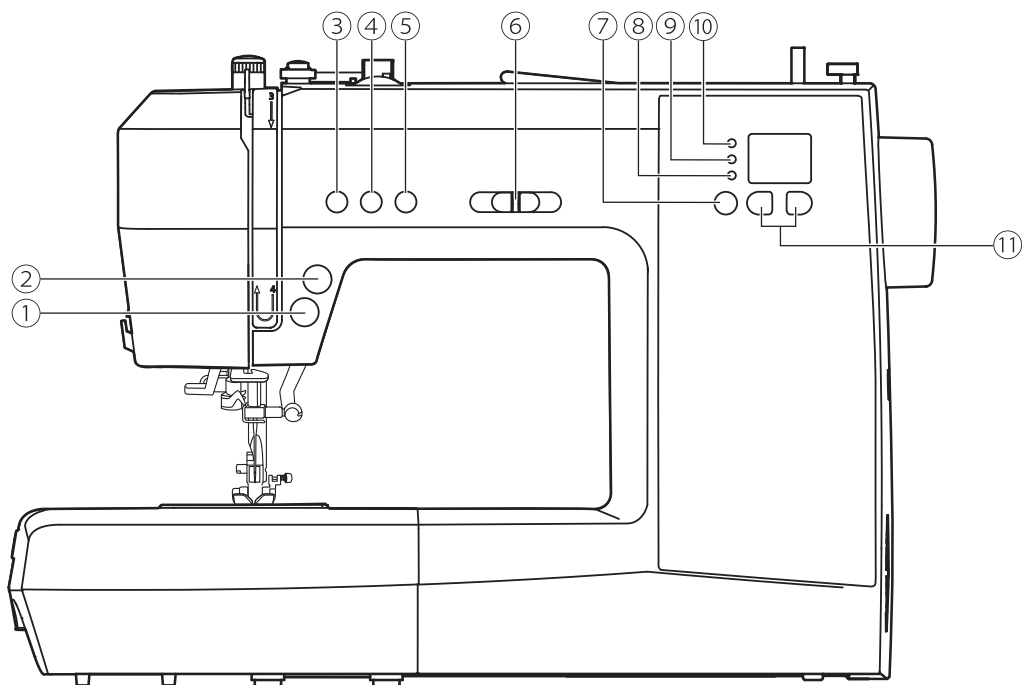


糸調子調節ダイヤルの数字を変更しても糸調子が合わない場合は、糸が正しくセットされていない可能性があります。

- ・ 下糸のセットが正常でない場合。
- ・ 上糸をかける際に、押え上げレバーを上げずに糸かけをしてしまった場合。

8 ページ～ 12 ページをご覧ください、再度、上下糸を正しくセットし直してください。

# 各部の操作とはたらき



## ① スタート・ストップボタン

ボタンを押すと動きだし、スピードコントロールつまみでセットした速さで動きます。

再度押すとストップします。

ボタンの色がミシンの準備の状態が変わります。

※ 糸巻き軸が右側に寄っているときは、針は上下せず糸巻き軸だけ回ります。

**緑**：開始準備完了またはぬい中。

**赤**：開始する準備ができていません。

(押えが下がっていない。糸がよれたり、詰まったりしている。)

**オレンジ**：下糸巻き状態です。

## ② 返しぬいボタン

【直線（00～04）、ジグザグ（05）を選択しているとき】



- ミシン停止中  
返しぬいボタンを押すと、押している間、返しぬいをして、ボタンを放すと止まります。
- ぬい中  
ボタンを押すと低速で返しぬいになり、ボタンを放すと前進に変わります。

【上記以外の模様を選択しているとき】

- ミシン停止中  
使用できません。
  - ぬい中  
ボタンを押すと、3針でぬい停止します。
- ※ ボタン穴かがり、ダーニング模様、アイレット（模様 No.15～21）を選択しているときは返しぬいボタンを使用できません。

## ③ 糸切りボタン



ぬい終わった後、このボタンを押すと上、下糸を自動的に切ります。

## ④ 止めぬいボタン



- ミシン停止中  
止めぬいボタンを押すと、3針止めぬいをして自動的に止まります。
- ぬい中  
直線、ジグザグ等（模様 No.00～14）を選択しているときは、止めぬいボタンを押すと、3針止めぬいをして自動的に止まります。  
かざり模様（22～59）を選択しているときは、止めぬいボタンを押すと、ぬい途中の模様を完了して停止します。

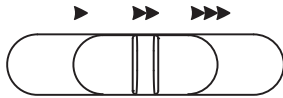
※ ボタン穴かがり、ダーニング模様（15～21）などを選択しているときは、止めぬいボタンを使用できません。



### ⑤ 針上下ボタン

ボタンを押すたびに、針の位置を上または下に切り替えます。

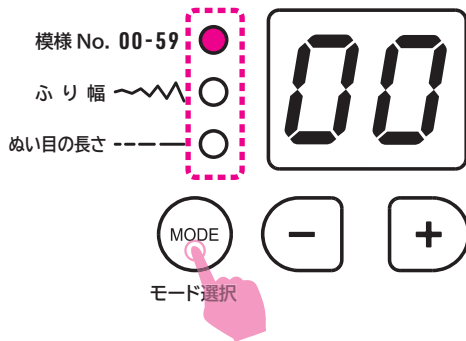
また、ぬい始めにこのボタンで針を下に下げてからスタートした場合、ミシン停止時に針は下で止まり、上に上げてスタートした場合、上で止まります。



### ⑥ スピードコントロールつまみ

ミシンでぬうスピードを設定します。お好みのスピードにセットしてください。

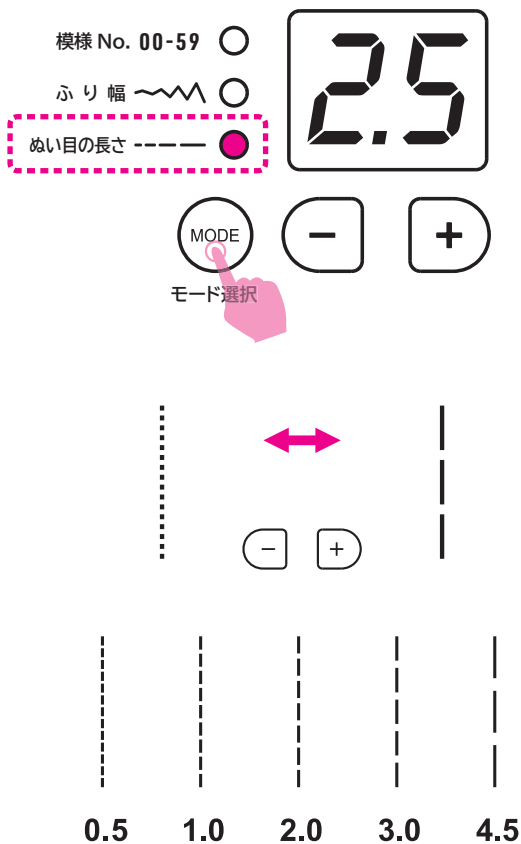
速度を遅くするには、左側に寄せます。速くするには、右側に寄せます。



### ⑦ モード選択ボタン

電源を入れた直後は、模様選択モードの00「中基線直線」が選ばれ、ボタンを押すごとに、ふり幅、ぬい目の長さに切り替わります。さらに押すと模様選択モードに戻り繰り返します。

- 模様 No.00 ~ 59:  
「-」「+」ボタンを使用して模様を選択します。
- ふり幅モード:  
「-」「+」ボタンでふり幅を調整します。
- ぬい目の長さモード:  
「-」「+」ボタンでぬい目の長さを調整します。



## ⑧ ぬい目の長さ調整ランプ

ぬい目の長さを設定するときは、モード選択ボタンを押してぬい目の長さの状態に切り替えます。標準設定値が自動的に画面に表示されます。

単位はmm（ミリメートル）です。

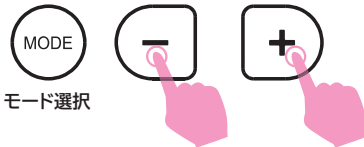
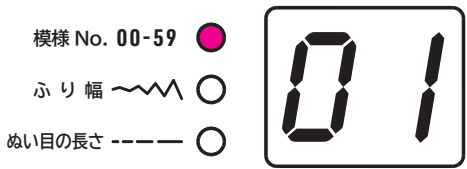
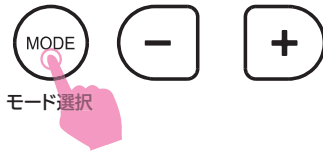
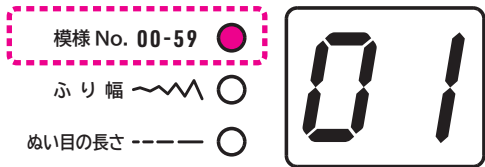
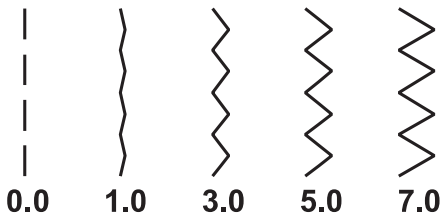
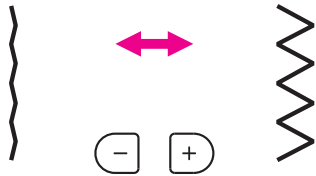
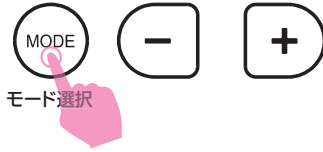
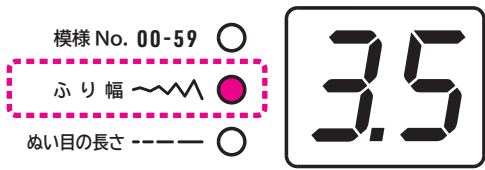
お好みのぬい目の長さにボタンで調整できます。

ぬい目の長さを長くするには「+」ボタンを押します。ぬい目の長さを短くするには「-」ボタンを押します。

ぬい目の長さが0.5mm間隔で画面に表示されます。

模様によって異なりますが、調整範囲は0.0から4.5の間です。

ぬい目は、生地、ミシン針、模様により適切な長さに調整し、一般的には厚地になるほどぬい目を長めに設定すると効果的です。



### ⑨ ふり幅調整ランプ

ふり幅を設定するときは、モード選択ボタンを押してふり幅の状態に切り替えます。標準設定値が自動的に画面に表示されます。

単位はmm (ミリメートル) です。

お好みの幅にボタンで調整できます。

ふり幅を広くするには「+」ボタンを押します。ふり幅を狭くするには「-」ボタンを押します。

ふり幅の増減が0.5mm 間隔で画面に表示されます。

もようによって異なりますが、調整範囲は0.0から7.0の間です。

模様 No.00 を選択したとき、標準設定値である3.5が表示され、針が左右のふり幅内の中央に落ちるように自動的に設定されます。

### ⑩ 模様 No. 選択ランプ

模様 No. を選択するときは、モード選択ボタンを押して模様 No. 選択の状態に切り替えます。

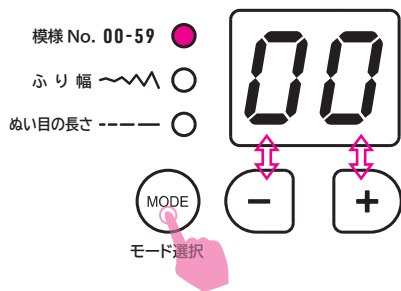
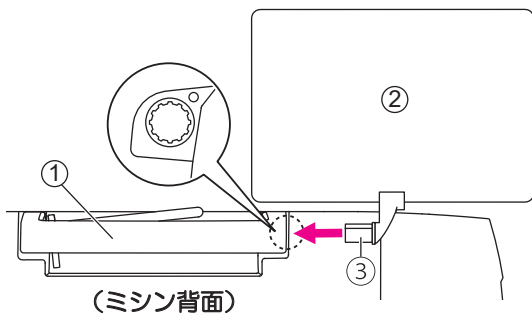
00 ~ 59 までの60種類の模様を選択できます。

「-」ボタンを押すと0~5までの10の位を変更でき、「+」ボタンを押すと0~9の1の位を変更できます。

### ⑪ 数字選択ボタン

模様 No. の選択、ふり幅やぬい目の長さを調整するときに使用します。

# 模様を選択



模様プレートをハンドルに差し込みます。

- ① 取っ手
- ② 模様プレート
- ③ 模様プレートクリップ

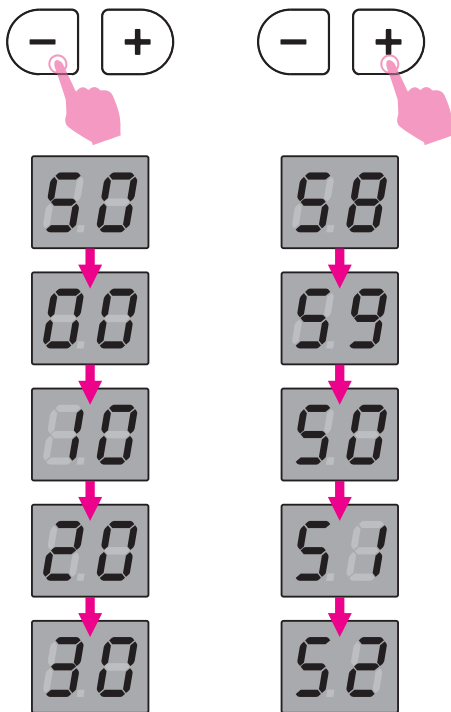
模様プレートに表示されている模様の中から希望のぬい模様を選択し、模様グループを選び、数値で入力します。

電源を入れると、模様 No. 選択ランプが点灯します。

「-」ボタンを押すと0～5までの10の位を変更できます。

「+」ボタンを押すと0～9の1の位を変更できます。

ぬいたい模様 No. に数字を変更します。






# もよう一覧

もよう		ふり幅 (mm)		ぬい目の長さ (mm)		押え番号	機能		
		自動	手動	自動	手動		↺	◎	
実用模様	00		3.5	0.0~7.0	2.5	0.0~4.5	T	*	*
	01		0.0	0.0~7.0	2.5	0.0~4.5	T	*	*
	02		3.5	0.0~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*
	03		3.5	1.0~6.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*
	04		3.5	0.0~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*	*
	05		5.0	0.0~7.0	2.0	0.3~4.5	T	*	*
	06		5.0	2.0~7.0	1.0	0.3~4.5	T	*	*
	07		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*
	08		5.0	4.5~5.5	2.5	1.0~3.0	E	*	*
	09		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*
	10		3.5	1.0~6.0	2.0	0.5~4.5	F	*	*
	11		3.5	2.5~6.0	1.5	0.5~4.5	F	*	*
	12		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	T	*	*
	13		7.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	A	*	*
14		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~3.0	A	*	*	
ボタン穴かがり	15		5.0	3.0~7.0	0.4	0.3~1.0	D		
	16		5.0	3.0~5.5	0.4	0.3~1.0	D		
	17		7.0	5.5~7.0	0.4	0.3~1.0	D		
	18		7.0	5.5~7.0	0.4	0.3~1.0	D		
	19		6.0	3.0~7.0	1.0	1.0~2.0	D		
アイレット つくろい模様	20		7.0	5.0~7.0	—	—	A		
21		7.0	3.5~7.0	2.0	1.0~2.0	D			
サテン	22		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A	*	*
	23		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A	*	*
	24		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A	*	*
	25		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A	*	*
	26		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A	*	*
	27		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A	*	*
	28		7.0	2.5~7.0	0.4	0.3~1.0	A	*	*
クロス	29		5.0	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	A	*	*
	30		5.0	3.0~7.0	2.0	1.0~3.0	A	*	*
	31		6.0	3.0~7.0	1.5	1.5~3.0	A	*	*
キルト	32		3.5	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*	*
	33		3.5	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*	*
	34		3.5	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*	*
	35		4.0	2.5~7.0	2.0	1.0~3.0	T	*	*
	36		7.0	3.0~7.0	1.5	1.0~3.0	T	*	*
	37		5.0	2.5~7.0	2.0	1.0~3.0	T	*	*
	38		6.0	3.5~7.0	1.5	1.0~3.0	T	*	*
	39		5.5	3.5~7.0	1.5	1.5~3.0	A	*	*
	40		5.0	2.5~7.0	2.5	2.0~3.0	A	*	*
	41		7.0	3.0~7.0	2.0	1.5~3.0	T	*	*
	42		6.0	4.5~7.0	1.5	1.0~3.0	A	*	*
	装飾	43		5.0	3.0~7.0	3.0	2.0~3.0	A	*
44			7.0	3.0~7.0	2.0	1.5~3.0	T	*	*
45			7.0	2.5~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*	*
46			6.0	2.5~7.0	1.5	1.5~3.0	T	*	*
47			7.0	3.5~7.0	2.0	1.5~3.0	T	*	*
48			7.0	3.5~7.0	1.5	1.0~3.0	A	*	*
49			5.0	2.5~7.0	2.0	2.0~3.0	A	*	*

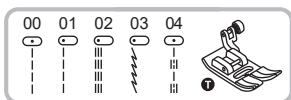
\* は返しぬい、止めぬいをすることができます。



もよう		ふり幅 (mm)		ぬい目の長さ (mm)		押え 番号	機能		
		自動	手動	自動	手動		↻	◎	
装飾	50		7.0	3.5~7.0	3.0	2.0~3.0	A	*	*
	51		7.0	3.5~7.0	3.0	2.0~3.0	A	*	*
	52		7.0	3.0~7.0	2.0	2.0~3.0	A	*	*
	53		5.0	3.5~7.0	1.5	1.5~3.0	A	*	*
	54		7.0	3.0~7.0	2.0	1.5~3.0	A	*	*
	55		7.0	3.5~7.0	2.5	1.5~3.0	A	*	*
	56		7.0	3.0~7.0	2.5	1.5~3.0	T	*	*
	57		7.0	3.5~7.0	2.0	1.5~3.0	T	*	*
	58		7.0	3.0~7.0	3.0	1.5~3.0	T	*	*
59		7.0	3.5~7.0	3.0	1.5~3.0	A	*	*	

\* は返しぬい、止めぬいをすることができます。

# 直線ぬい



**注意** 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

模様 No. 00-59 ○  
 ふり幅 ○  
 ぬい目の長さ ●

MODE (モード選択)   -   +

2.5

0.5   1.0   2.0   3.0   4.5

1. 基本押え (T) を取り付けます。
2. 模様を選びます。

### ❖ ぬい目の長さの変更

3. モード選択ボタンを押してぬい目の長さの状態に切り替えます。  
 ぬい目の長さを短くするには「-」ボタンを押します。  
 ぬい目の長さを長くするには「+」ボタンを押します。  
 通常、布地が厚く、糸・針が太いほどぬい目の長さを長くします。

※ 標準のぬい目長さに設定されたとき、その数字が3回点滅します。

模様 No. 00-59 ○  
 ふり幅 ●  
 ぬい目の長さ ○

MODE (モード選択)   -   +

3.5

0.0   2.0   3.5   5.0   7.0

### ❖ 針位置の変更

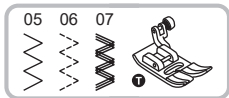
4. 模様 No.00 ~ 04 を選択したときは、針の左右位置を変えることができます。

標準設定の位置は針穴中央に対応する「3.5」です。

針位置を左に移動するには「-」ボタンを押します。  
 針位置を右に移動するには「+」ボタンを押します。  
 針の位置は、左 0.0 から右 7.0 の範囲で変更することができます。

※ 標準の針位置（ふり幅）に設定されたとき、その数字が3回点滅します。

# ジグザグぬい



**注意** 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

模様 No. 00-59 ○  
 ふり幅 ○  
 ぬい目の長さ ----- ○

MODE - +  
 モード選択

0.0 1.0 3.0 5.0 7.0

1. 基本押え (T) を取り付けます。
2. 模様を選びます。
3. ふり幅を決めます。  
 モード選択ボタンを押してふり幅の状態に切り替えます。  
 ふり幅を狭くするには「-」ボタンを押します。  
 ふり幅を広くするには「+」ボタンを押します。  
 ふり幅は「0.0」から「7.0」まで調整できます。

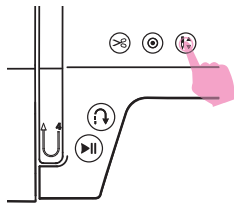
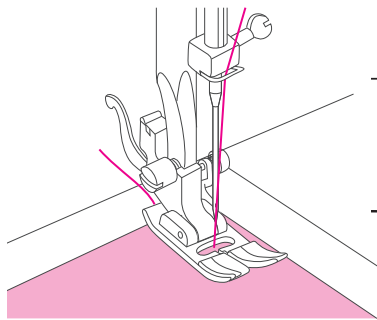
模様 No. 00-59 ○  
 ふり幅 ○  
 ぬい目の長さ ----- ○

MODE - +  
 モード選択

0.5 1.0 2.0 3.0 4.5

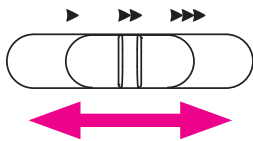
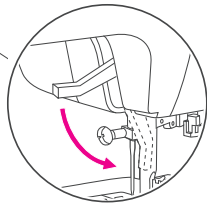
4. ぬい目の長さを決めます。  
 モード選択ボタンを押してぬい目の長さの状態に切り替えます。  
 ぬい目の長さを短くするには「-」ボタンを押します。  
 ぬい目の長さを長くするには「+」ボタンを押します。

# 基本ぬい（直線ぬいとジグザグぬい）

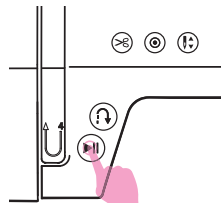
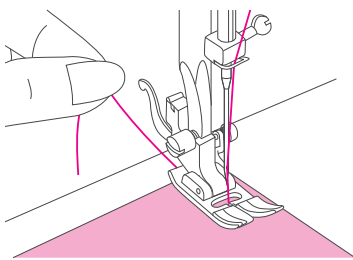


## ❖ 基本のぬい方

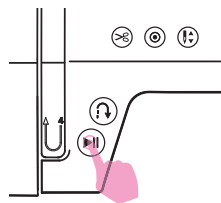
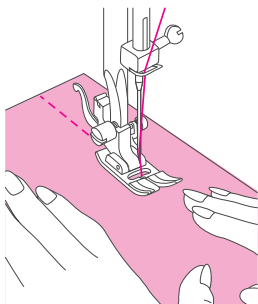
1. 電源を入れます。  
直線ぬい (00: 中基線) が表示されます。  
この状態で直線ぬいをすることができます。
2. 押えを確かめます。(基本押え (T))  
針上下ボタンを押し、針を上に戻します。  
※ 電源を入れた直後は、針が上に上がります。  
押えを上げ、布地を入れて押えを下げます。



3. ぬい速度を設定します。

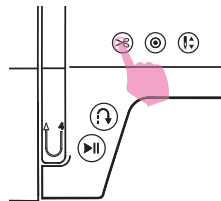


4. 糸端を軽く後ろに持ちながら、スタート・ストップボタンを押し、スタートさせます。

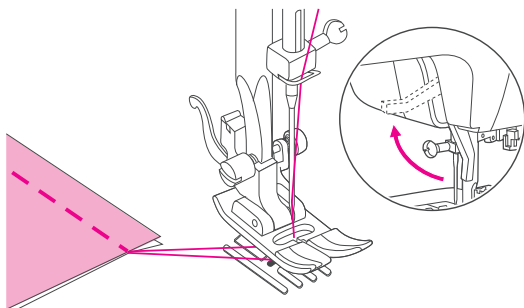


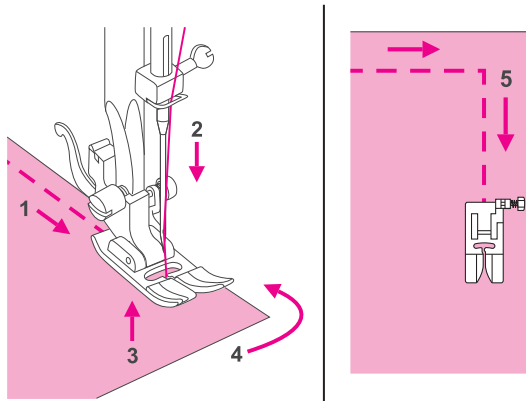
5. 布地に軽く手をそえます。  
ぬっている間は布地を無理に引っ張らないようにします。

6. スタート・ストップボタンを押して、ストップします。  
糸切りボタンを押して糸を切ります。



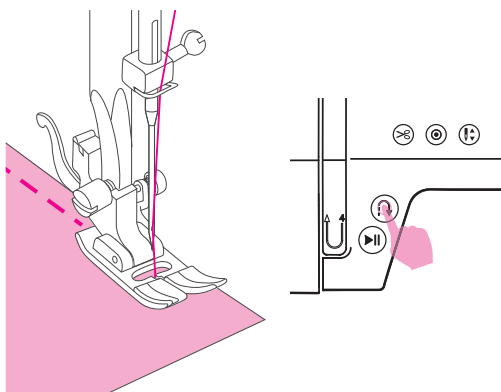
7. 押えを上げ、布地を後ろへ引いて取り出します。





### ❖ ぬい方向をかえるには

1. 布地の角まで来たら、ストップします。
2. 針上下ボタンを押し、針を下げ布にさします。
3. 押えを上げます。
4. 針をさしたまま布地を回し、ぬい方向にセットします。
5. 押えを下げて、ぬい始めます。



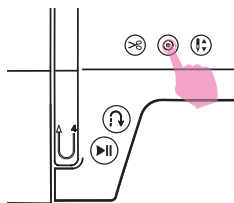
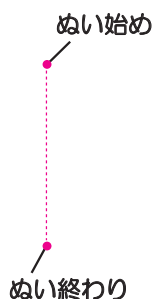
### ❖ 返しぬい (模様 No.00 ~ 04)

ぬい始めやぬい終わりに、3~5針返しぬいをしておくと、ぬい目がほつれず、丈夫になります。

ミシンが停止状態で返しぬいボタンを押すと、押し続けている間は返しぬいをし、手を放すとミシンは停止します。

ぬい始めからほつれ止めを行う場合は、布端から3~5針分手前に針をさします。

※ 裁縫中、ボタンを押し続けている間は返しぬいになり、放すと前進ぬいになります。  
スタート・ストップボタンを押してミシンを止めます。



### ❖ 止めぬい

ぬい終わりに、自動で止めぬいをすることができます。

1. 模様を選びます。
2. ぬい始めの位置で止めぬいボタンを押すと、3針止めぬいをして止まります。
3. スタート・ストップボタンを押します。
4. 模様 No.00 ~ 14 のとき、ぬい終わりの位置で、止めぬいボタンを押すと、3針程度止めぬいをして自動的に止まります。  
模様 No.22 ~ 59 のとき、ぬい終わりの位置で、止めぬいボタンを押すと、ぬい途中の模様を完了して停止します。

※ 模様 No.15 ~ 21 のときは、ボタンを押しても機能しません。

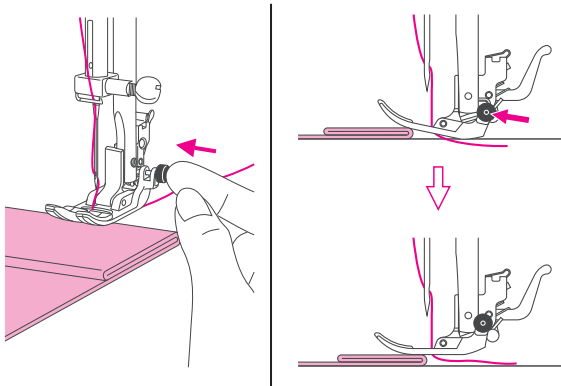
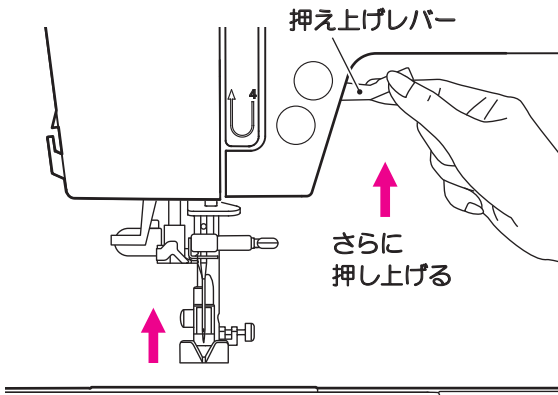
## ❖ 厚地のぬい方

### 厚い布をいれるとき

布を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布を押えの下に入れやすくするため、押えをさらに上にあげることができます。

※ このときレバーは固定されません。

手を放すとレバーは普通に上げた位置に戻ります。



### 厚地の布端のぬい始め

ぬい始めの位置に針をさし、基本押えの右側にある黒ボタンを押し込みます。

ボタンを押したままで、押えを下げます。

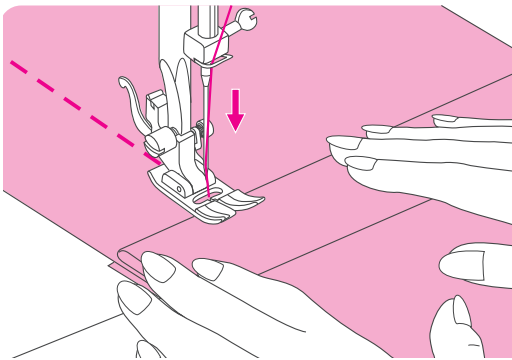
押えが水平なことを確認したら、ボタンから手を放し、ぬい始めます。

## ❖ 段ぬい

布地が重なって、急に厚くなった部分は針を布にさし、押えを上げ、基本押えの黒ボタンを押し込みます。

ボタンを押したまま押えを下げ、押えが水平なことを確認してから、ボタンから手を放し、再びぬい始めます。

段ぬいが終わると、自動でボタンは解除されます。

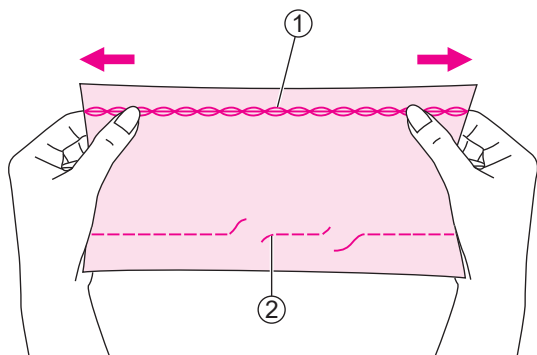


# 伸縮ぬい



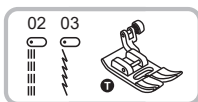
**注意**

押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



このぬい目は伸縮性があるので、ニットやジャージなどの伸縮性のある布地のぬいに適しています。

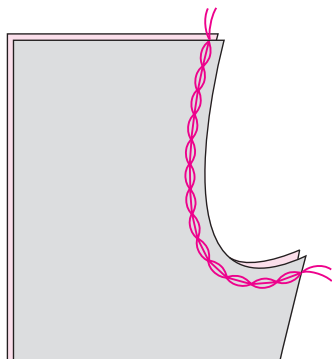
- ① 伸縮ぬい
- ② 普通の直線ぬい



基本押え (T) を取り付けます。

## • 直線強化ぬい 02

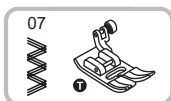
直線の三重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。



## • 伸縮直線ぬい 03

伸縮性のある直線状のぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れにくいです。

いずれも、伸びる布地の地ぬいなどにお使いください。ぬい方は、直線ぬいと同じです。

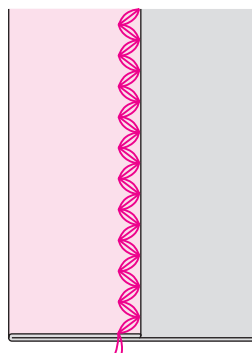


基本押え (T) を取り付けます。

飾りぬいとして使用する場合は、サテン押え (A) に付け替えます。

## • 三重シグザグぬい 07


シグザグの三重ぬいです。伸縮性のある布地のぬい合わせに最適です。

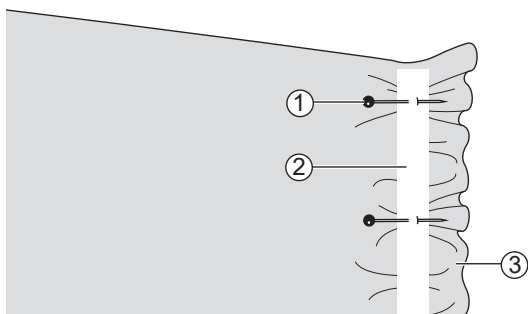


# 伸縮地とゴムテープ

衣服の袖やウエスト部分にゴムテープを貼り付ける場合、ゴムテープの寸法が仕上げ寸法になりますので、適切な長さのゴムテープをご使用ください。

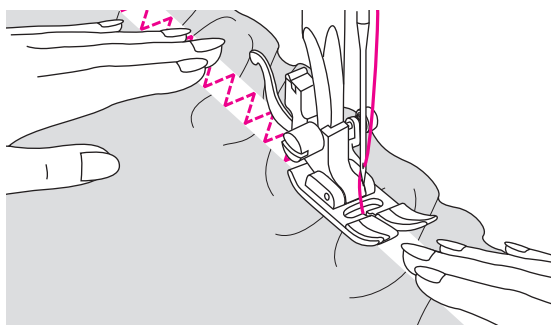


 <b>注意</b>	押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
---	------------------------------

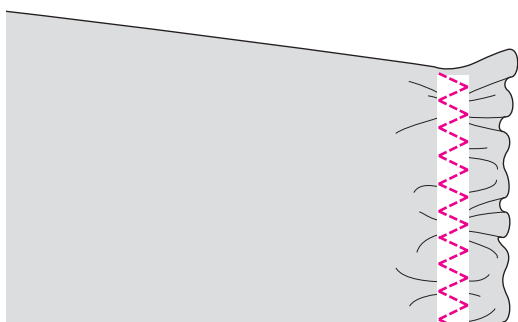



1. 基本押え (T) を取り付けます。
2. ゴムテープを数箇所ピンで固定して、布地の上に均一に配置します。

- ① ピン
- ② ゴムテープ
- ③ 布地 (裏側)



3. 布地の長さに等しくなるようにゴムテープを伸ばしながら、布地にテープをぬいつけます。
4. 左手で押えの後ろの布地を引っ張ると同時に、右手で押えの前方に最も近いピンポイントから布地を引きます。



 <b>注意</b>	ぬい中に針がピンに触れないようにしてください。針が折れる可能性があります。
---	---------------------------------------

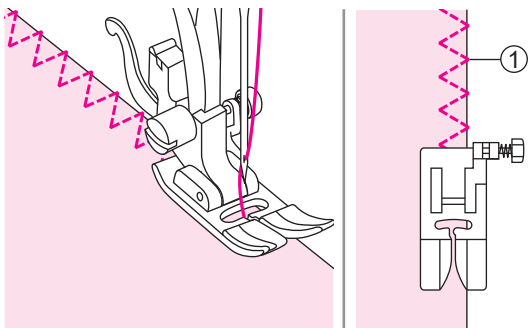


# 裁ち目かがりぬい

裁断した布地の端がほつれないように縁かがりをします。



**注意** 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

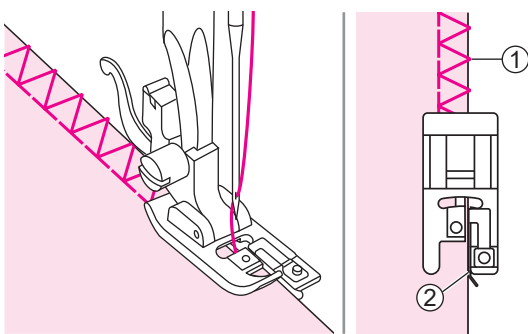


## ❖ 基本押えを使用

1. 基本押え (T) を取り付けます。
2. 布地の端①に針が落ちるように配置した状態で、布地の端に沿ってぬいます。



**注意** 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

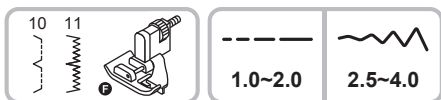


## ❖ 裁ち目かがり押えを使用

1. 裁ち目かがり押え (E) を取り付けます。
2. 裁ち目かがり押えのガイド②に従って布地の端①をぬいます。

# ブラインドステッチ（まつりぬい）

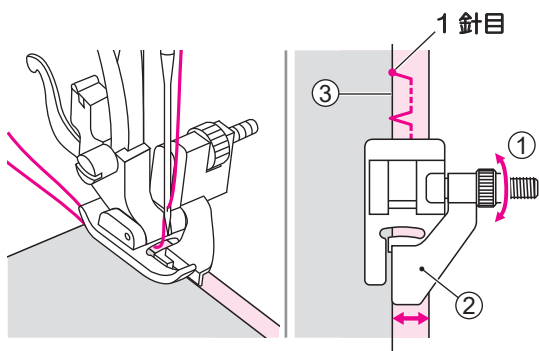
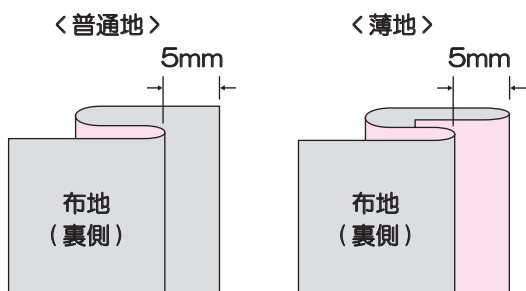
布地の表面に目立たないぬい目をつくるぬい方です。  
ズボンやスカートの裾、袖口の裁縫に用います。



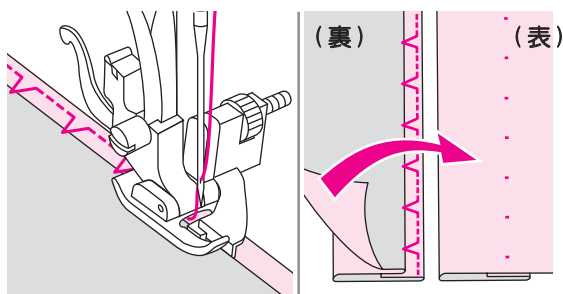
① ②

<b>⚠ 注意</b>	押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
-------------	------------------------------

1. ブラインドステッチ押え (F) を取り付けます。
2. 模様を選びます。
  - ① 普通地用
  - ② 伸縮性地用
3. 図のように布地（裏側）が上になるように布地を折ります。

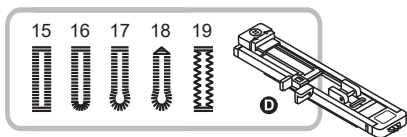


4. 調節ダイヤル①を回し、押えのガイド②を折り山③に合わせます。  
押えを下げます。  
はずみ車を回して、折り山に 1 針目が落ちるように調整します。
- ※ 針が押えに当たらないように注意してください。



5. ガイドの端に沿って慎重にゆっくりとぬいめます。
6. 布地を裏返します。

# ボタン穴かがりぬい

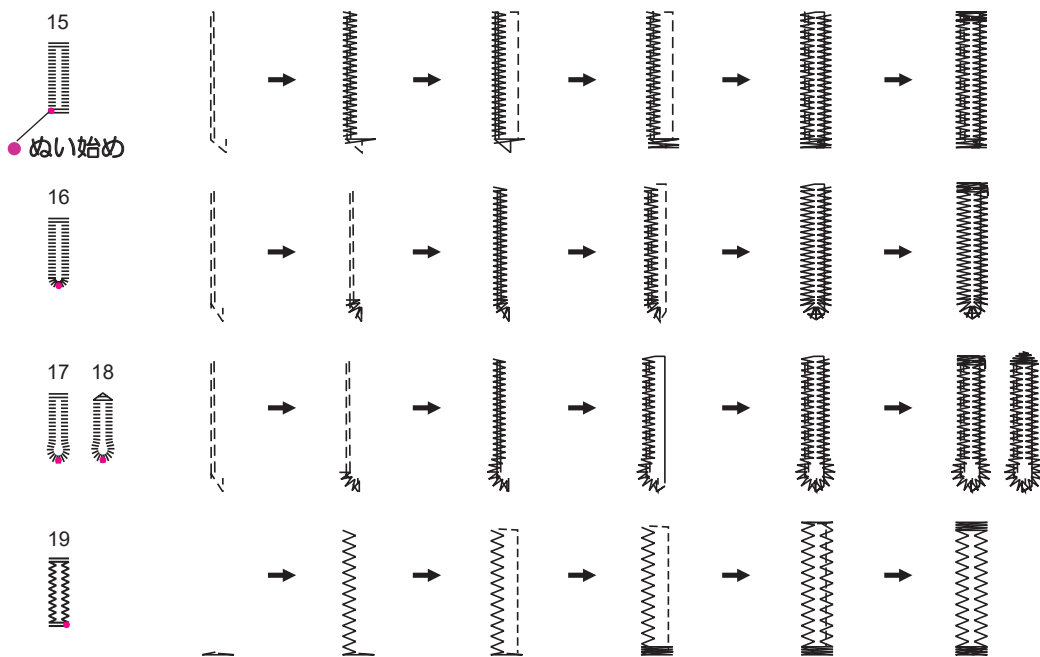


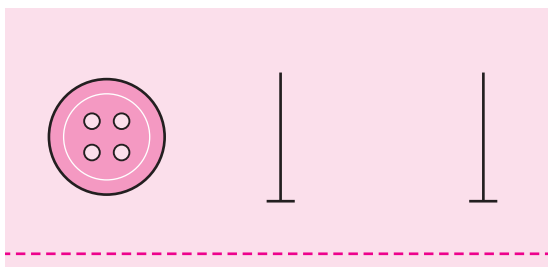
ボタン穴かがりは次の5種から選びます。

**注意** 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

15	両かん止め	薄地、普通地に。ワイシャツ、ブラウス類などに。
16	ねむり	薄地、普通地のシャツ・ブラウスや子供服などに。 縦かん止めはデザインに見合った作品に。
17	ハトメ	普通地・厚地のジャケットやシャツなどに。 縦かん止めはデザインに見合った作品に。
18		
19	かざり用	フラワーホールやジャケットなどの開き見せに。

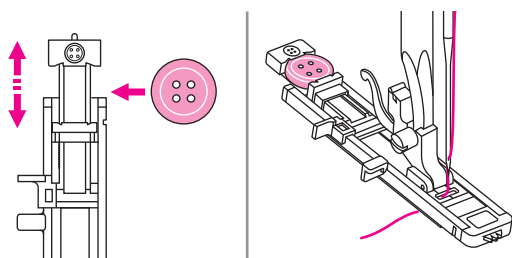
\* ボタン穴かがりは次の順序でぬわれます。





1. ボタン穴かがりをする位置にチャコペンなどで印をつけます。

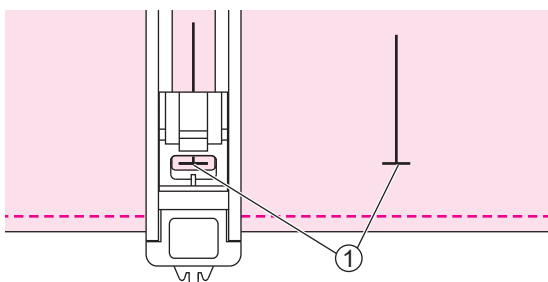
「ボタンの直径+厚み」3cm までのボタン穴かがりができます。



2. ボタン穴かがり押え (D) のボタン受け台を後ろに引き、ボタンを置きます。ボタン受け台をボタンの方向にスライドさせてしっかりと固定します。

3. ボタン穴かがり押えの針穴部分に糸を通し、ボタン穴かがり押えを取り付けます。

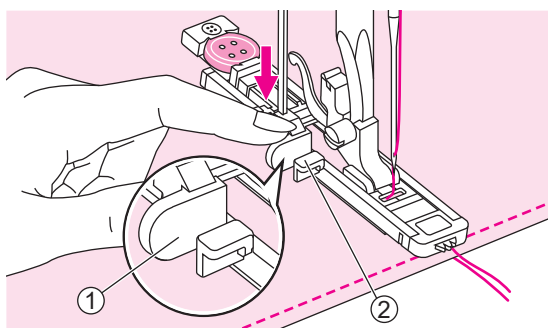
4. 押えを上げて、上糸を押えの穴から下に通します。



5. 中心線マークがボタン穴かがり押えの中心と一致するように、押えの下に布地を置きます。

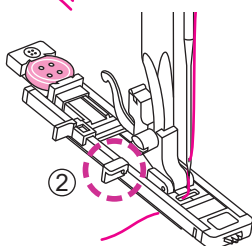
① ぬい始めの位置

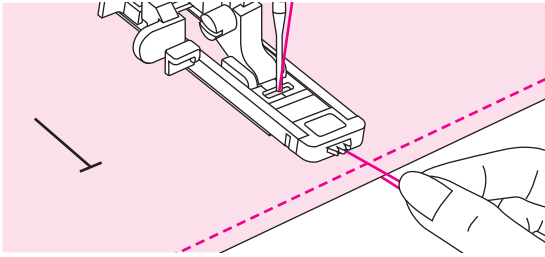
6. ミシンの電源を入れ、ボタン穴模様を選択します。



7. ミシンの後ろ側にある、ボタン穴かがりレバー①を下に引き、完全に止まるまで下げます。

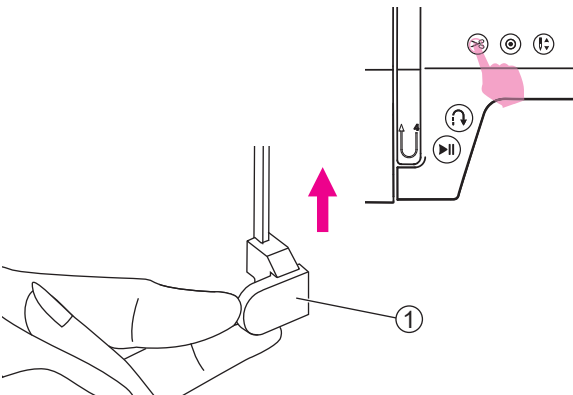
ボタン穴かがりレバーは、必ずボタン穴かがり押えの左側にある、2カ所ある突起部の前方の突起②の後ろ側に下りるようにセットしてください。



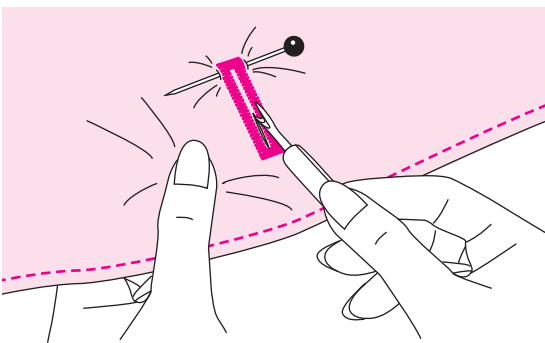


8. 糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。  
 ※ 糸は引っ張らないようにしてください。

ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

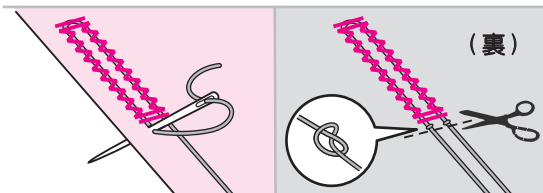
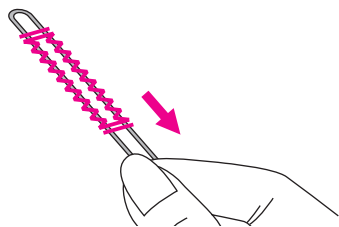
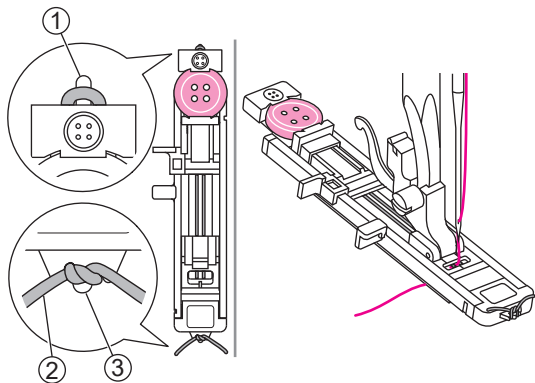
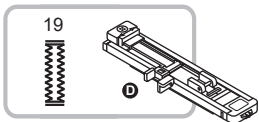


9. 糸切りボタンを押して糸を切ります。  
 10. 押えを上げて生地を取り出します。  
 11. ボタン穴かがりレバー①を押し上げて、元の位置に戻します。



12. ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内部にまち針をさします。  
 ※ まち針は付属品ではありません。  
 13. 付属のリッパーでボタン穴を切り開きます。

<b>注意</b>	リッパーで穴を開けるとき、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。
-----------	--



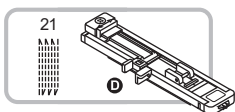
## ❖ 伸縮地のボタン穴かがりぬい

伸びる布地にボタン穴かがりをぬうときは、ボタン穴かがりに芯ひもを入れてください。

1. ボタン穴かがり押えを取り付けます。
2. 芯ひも②の輪を押えの後ろ側にあるツノ①にかけ、押えの下から手前に平行になるように引き出し、前側の案内③にはさみます。
3. 通常のボタン穴かがりと同じようにぬいます。
4. ぬいが完了したら、芯ひもを軽く引っ張って緩い部分を取り除きます。
5. 芯ひもを針の前に交差させ、先端を大きな針にさし込み、内側に引っ張って結び、残りの部分を切ります。

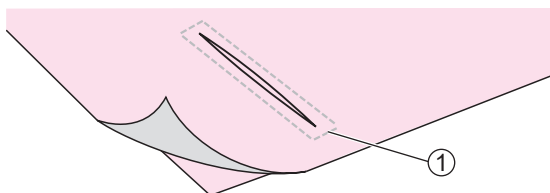
# つくろいぬい

服やズボンのちょっとしたかぎ裂きなどの破れをつくろいます。



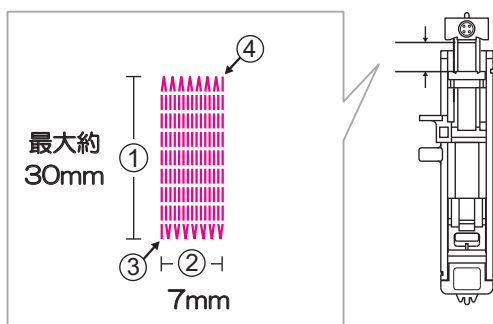
## 注意

押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



1. かぎ裂きなどをした布地の下に、あて布を重ねます。

① しつけ



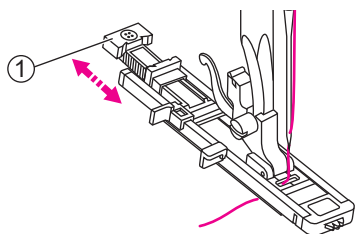
2. つくろいぬい1つのサイズを変えることができます。最大ぬい目の長さは約30mm、最大ふり幅は7mmです。

① ぬい目の長さ

② ふり幅

③ ぬい始め

④ ぬい終わり



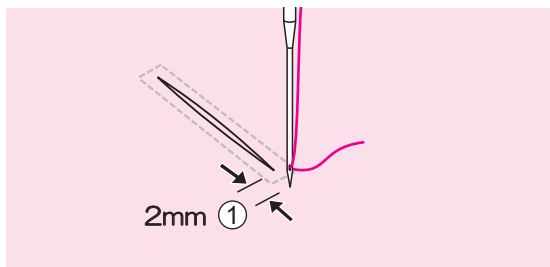
3. ボタン受け台①を後ろに引き、希望の長さを設定します。

4. 希望の幅と密度に合わせて、ふり幅とぬい目の長さを調整します。

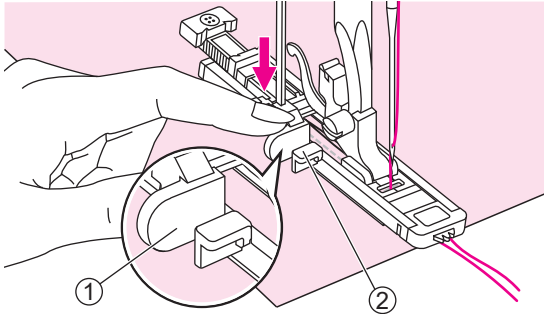
5. ボタン穴かがり押えを取り付けます。

6. 押えを上げて、上糸を押えの穴から下に通します。

7. ミシンの電源を入れ、模様 No.21 を選びます。



8. 針落ちがぬい始めるポイントより2mm手前①になるように布地を置き、押えを下げます。



8. ミシンの後ろ側にある、ボタン穴かがりレバー①を下に引き、完全に止まるまで下げます。

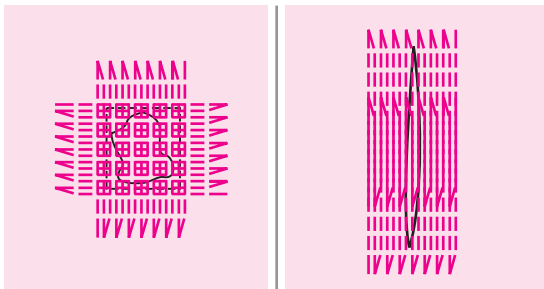
ボタン穴かがりレバーは、必ずボタン穴かがり押えの左側にある、2カ所ある突起部の前方の突起②の後ろ側に下りるようにセットしてください。



9. 上糸の先端を軽く持った状態でぬい始めます。

10. 押えの前から後ろにぬっていきます。  
ミシンは自動で停止します。

※ 布地が厚くて送られない場合は、ぬい目の長さを長くします。

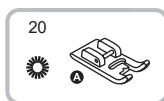


※ 縫製範囲が広すぎる場合は、複数回またはクロス縫製することをおすすめします。



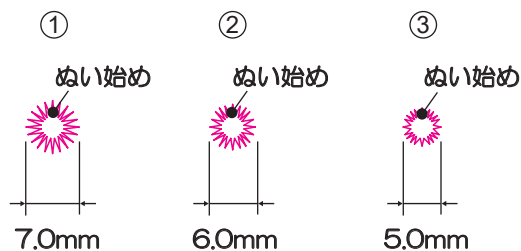
# アイレット

ひもやリボンを通したり、フラワーホールとして利用できます。



## 注意

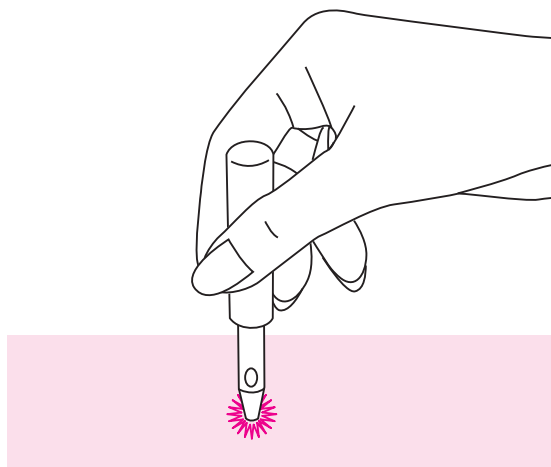
押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



1. サテン押え (A) を取り付けます。
2. ミシンの電源を入れ、模様 No.20 を選びます。
3. アイレットサイズを変更する場合、モード選択ボタンを押してふり幅モードへ変更後、数字選択ボタンを押してサイズを変更します。
  - ① 大：7.0mm（標準）
  - ② 中：6.0mm
  - ③ 小：5.0mm

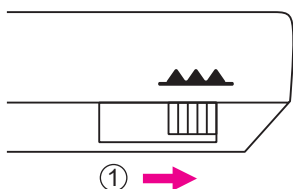
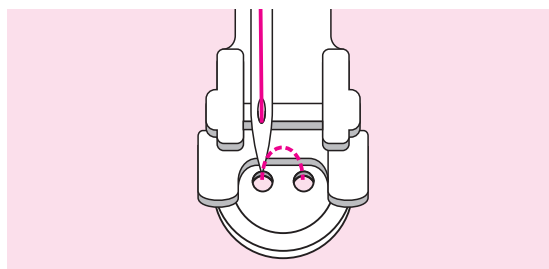
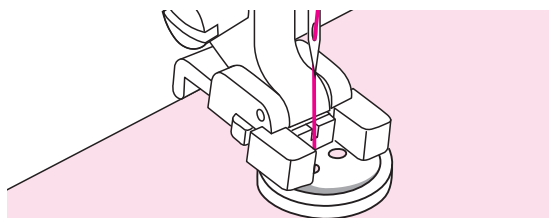
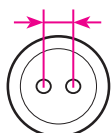
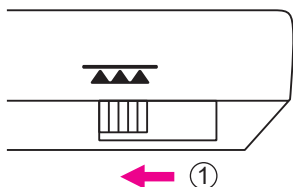
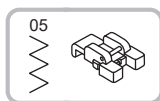
4. ぬい始め位置に針を下げ、押えを下げます。
5. 最後は自動で玉止めが入って停止します。
6. アイレットパンチやはさみで穴をあけます。

- ※ アイレットパンチは付属されていません。
- ※ アイレットパンチを使用するときは、穴を開ける前に布地の下に厚い紙や保護シートを置きます。



# ボタン付け

ミシンでボタン付けができます。



## 注意

押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

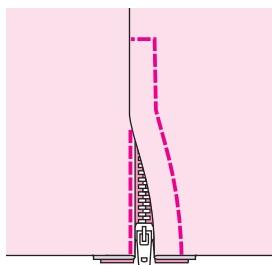
1. ボタン付け押え (H) を取り付けます。
2. ドロップフィードつまみを①の方向にスライドして送り歯を下げます。
3. 2つの穴の間隔を定規で測ります。  
ミシンの電源を入れ、模様 No.05 を選びます。  
ふり幅ボタンを押して、穴の間隔と同じ数字に設定します。
4. 布地の上にボタンを置きます。  
はずみ車を手前に回し、針が左にきたときボタンの左の穴に下りるようにセットします。  
ボタンの左右の穴が真横になるようにして押えを下げます。
5. はずみ車を回して、針がボタンの左側の穴と右側の穴にぴったり収まるようにします。スピードをゆっくりにしてスタートします。  
10針ほどぬったらミシンを止めます。  
押えを上げ、布地を取り出します。  
ここでは糸切りボタンは使わないでください。

※ 4つ穴のボタンは、先に2つの穴をぬい、それから残りの2つの穴をぬいます。

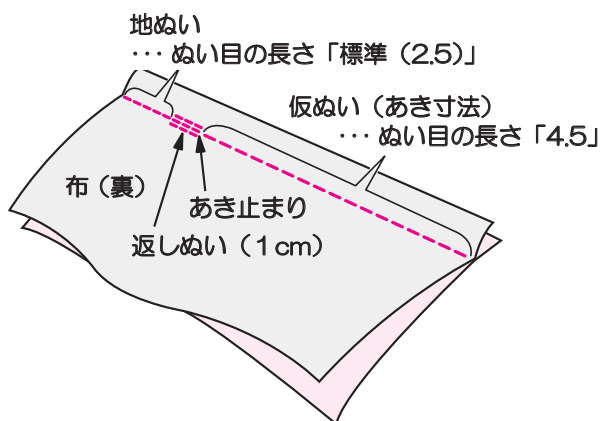
6. 作業が完了したら、ドロップフィードつまみを①の方向にスライドして送り歯を上げます。

# ファスナー付け

脇あきファスナー付けについて説明します。



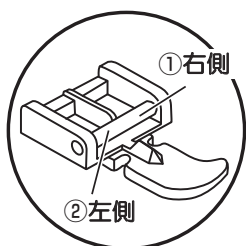
	<b>注意</b>
	<ul style="list-style-type: none"><li>- 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。</li><li>- ファスナー付けは、必ず中基線の直線（模様 No.00）だけを使用してください。他の模様を使用すると針が押えに当たり、折れたりして危険です。</li></ul>



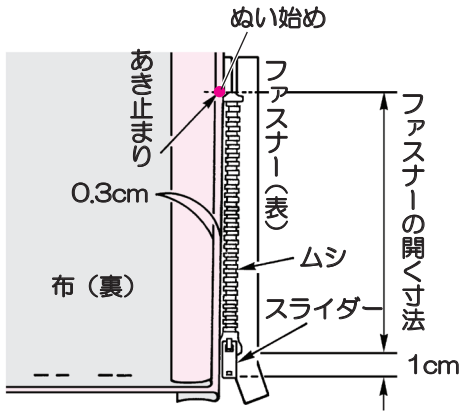
## ❖ ファスナーをぬう前の準備

1. 基本押え (T) を使ってぬいます。  
布地を中表に合わせて、地ぬいと、取り付けるファスナーの寸法を確かめて仮ぬいをします。

ファスナーの開く寸法 + 前後合わせて 1 cm = あき寸法

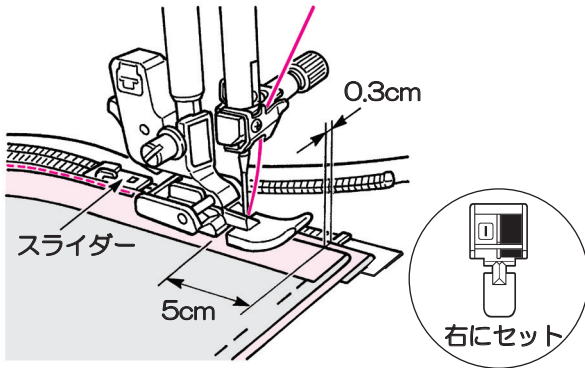


2. ファスナー押え (I) をセットします。  
ファスナーの左側をぬうときは、押えの①右側へセットします。  
ファスナーの右側をぬうときは、②左側へセットします。

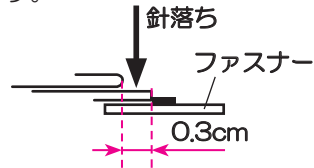


## ❖脇あきファスナー付け

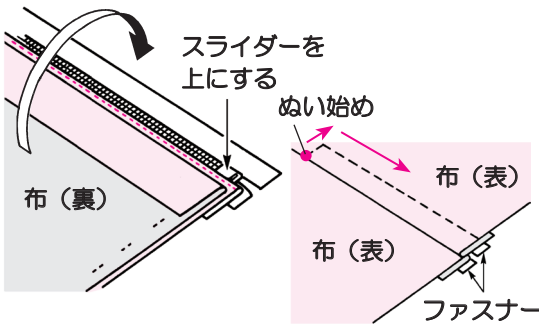
1. ぬいしろをわります。  
ぬいしろを 0.3cm 出してアイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわにあてます。



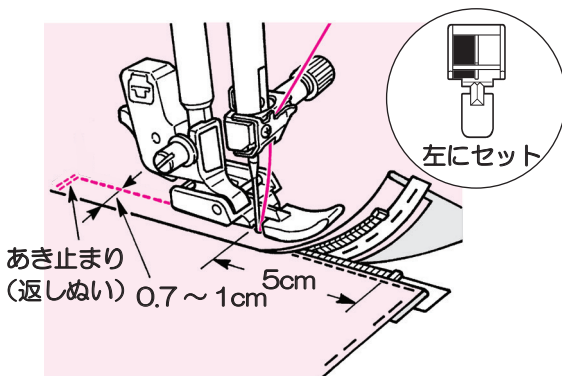
2. 左側をあき止まりからぬいます。  
0.3cm 幅の中央をあき止まりからぬいます。



手前 5cm 位でミシンを止めて、スライダを向こう側へ下げて、端までぬいます。



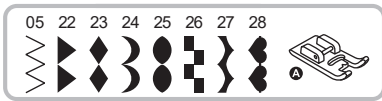
3. 布をファスナーの上にかぶせます。  
スライダをしめます。




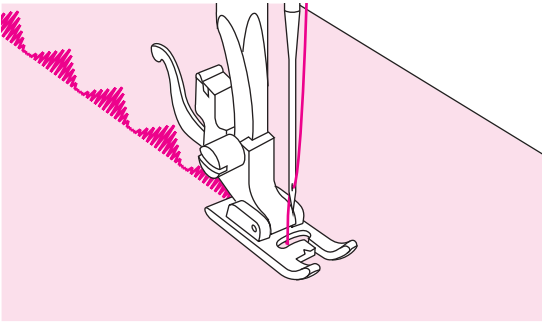
4. あき止まりを返しぬいして、右側をぬいます。  
返しぬいしたあと、押えの左端をムシのきわにあて、0.7～1cm のところをぬいます。  
手前 5cm 位のところでミシンを止め、押えの向こう側までスライダを下げます。  
そして残りの部分をぬいます。

# 飾りぬい

模様を連続してぬうことにより、装飾的な効果を得ることができます。



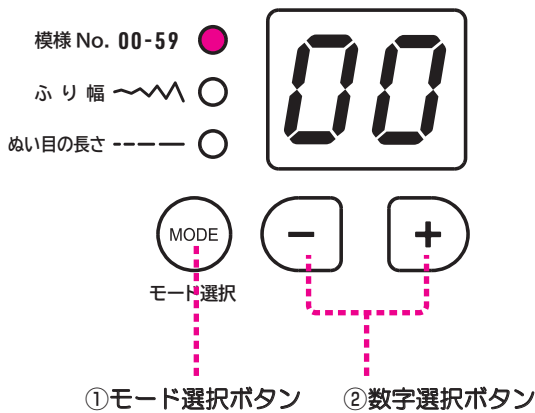
 <b>注意</b>	<p>押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。</p>
---	-------------------------------------



1. サテン押え (A) を取り付けます。
2. 希望した飾りぬいをするために、ぬい目の長さやふり幅を、モード選択ボタン①と数字選択ボタン②で調節することができます。  
ぬいたい布地の切れ端を利用して、希望した長さや幅になるかどうか、試しぬいをしてください。

※ 薄い布地をぬう場合は、布地の下に薄い紙を敷いて、布地と一緒にぬいます。  
ぬい終わったら、紙を破いて取り除きます。


※ 上記以外の飾り模様については、24 ページからの「模様一覧」をご覧ください、必ず正しい押えに交換してぬってください。

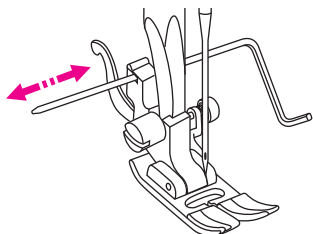


# キルティング

布地と布地の間に綿を入れ込んだものを「キルティング」といいます。

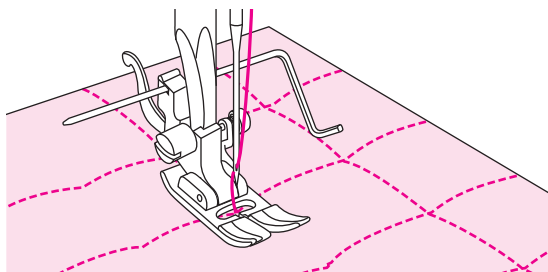


 <b>注意</b>	押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
---	------------------------------




## ❖ 棒定規の使用

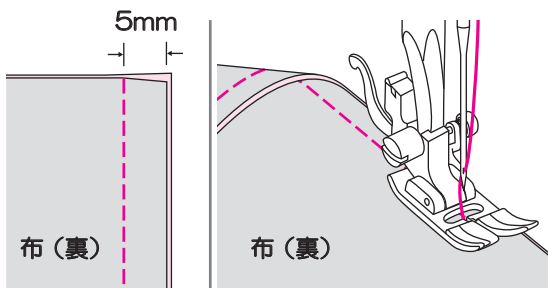
1. 基本押え (T) を取り付けます。
2. 押えホルダーの穴に棒定規を差し込みます。



3. 間隔を一定に保ちながらぬうことができます。左右の間隔が自由に調節できます。



 <b>注意</b>	押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
---	------------------------------



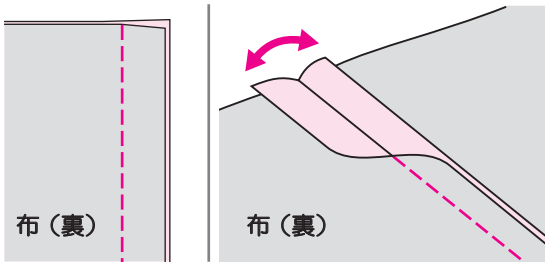
## ❖ 布地を合わせてぬう

1. 基本押え (T) を取り付けます。
2. 2枚の布地を中表にして右端を合わせ、地ぬいをします。  
ぬい代5mmで布地をつなぎ合わせます。  
押えの側面と布端を合わせてぬいます。

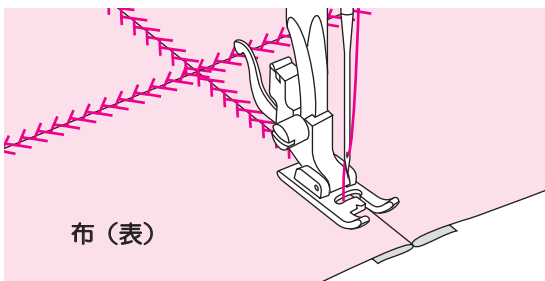
# パッチワーク



<b>!</b> 注意	押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
-------------	------------------------------

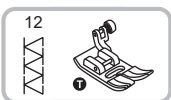


1. 基本押え (T) かサテン押え (A) を取り付けます。
2. 2枚の布地を中表にして右端を合わせ、地ぬいをします。
3. 地ぬい部分を折り目にして、図のように2枚の布を広げます。
4. 布地の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

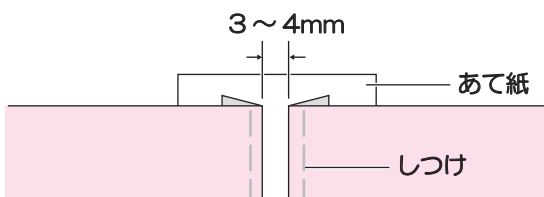


# ファゴティング

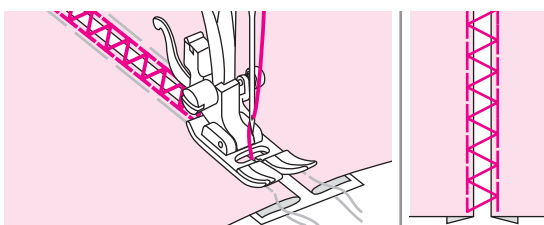
布地と布地の間を離して、糸でかがる方法を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服に使用します。太い糸を使用すると装飾効果が上がります。



<b>!</b> 注意	押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
-------------	------------------------------

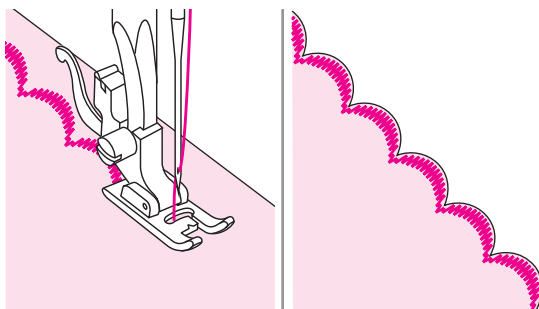
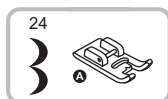


1. 基本押え (T) を取り付けます。
2. 布端と布端の間隔を3～4mmあけて、布に薄いあて紙をし、しつけぬいをします。
3. 布の表から、間隔の中央を中心にしてぬいます。
4. 縫製が完了したら、あて紙としつけをとりません。



# スカラップ

貝殻に似た波状の繰り返ステッチを「スカラップ」といいます。  
ブラウスの襟やニットの縁を飾るために使用されます。



## ⚠ 注意

押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

1. サテン押え (A) か基本押え (T) を取り付けます。
2. 布地の表から布端を 1cm くらい残してぬいます。
3. 糸を切らないように、外側の布地をぬい目にそって切り落とします。



# ミシンのお手入れ



**注意**

ケガ防止のために  
お手入れの際は、必ず電源プラグを  
抜いてください。

## ❖ ミシン表面の清掃

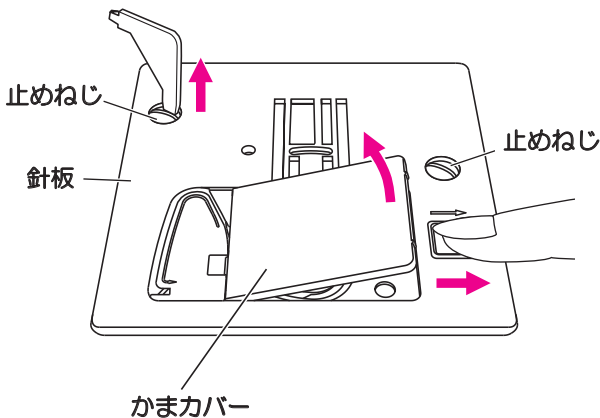
ミシンの表面が汚れている場合は、柔らかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

※ シンナーなどの溶剤で拭かないでください。

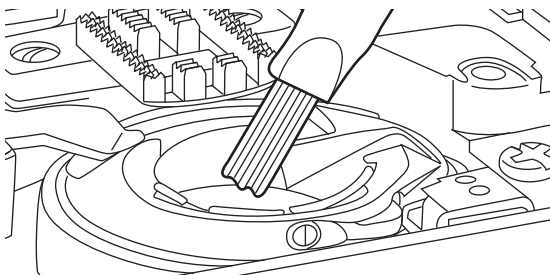
## ❖ 内カマと送り歯の掃除

糸くずやほこりがたまると、故障の原因になることがあります。

定期的に針板を外して送り歯や内カマのお掃除をしてください。



1. 針、押え、押えホルダーを外します。
2. かまカバーを取り外して、ボビンを取り出します。
3. 止めねじ（2ヶ所）を、付属の三角ドライバーで左回りに回して外し、針板を取り外します。
4. ブラシを使用して送り歯とかまを清掃します。柔らかく乾いた布で拭きます。



# 警告機能



このミシンには、誤操作した場合や、ミシンが動かなくなったときに「ピピピッ」と警告音が鳴る機能があります。

通常動作では「ピッ」と1回鳴ります。

## ※ モーター過負荷保護

糸がらみ等で、ミシンに異常な負荷がかかりモーターがロックした場合、モーターを保護するため「ピピピッ」と警告音が3回鳴り、ミシンが自動的に止まります。



## ❖ 指示メッセージ表示

ミシンにトラブルが発生しているとき、画面に「EL」とメッセージが表示されます。「故障かな・・・というときは」(53 ページ)を参照して解決策を見つけてください。問題が解決されると、ミシンは縫製できるようになります。

「故障かな・・・というときは」を参照し、原因に対処しても改善されない場合、お買い求めの販売店へご相談ください。

# フットコントローラー（別売品）



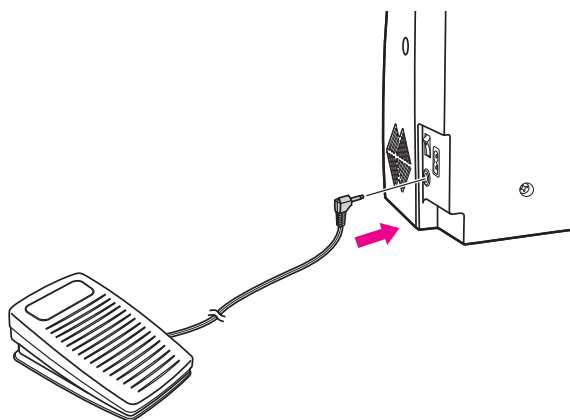
## 警告

感電、火災を防ぐために  
コントローラーは落としたり、座布団の下において使用しないでください。



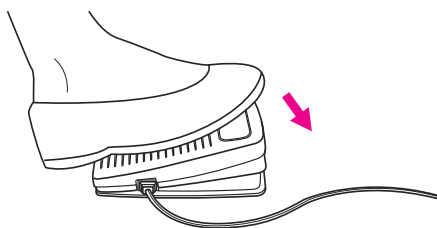
## 注意

ケガ防止のために  
コントローラーを接続するときは、必ず電源スイッチを切って行ってください。



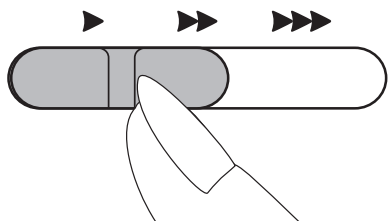
### ❖ 接続の仕方

フットコントローラーのプラグを図のように、  
コントローラーの差し込み口に差し込んで接  
続します。



### ❖ 使用方法

ペダルを踏むとミシンがスタートし、強く踏  
み込むほどぬうスピードが速くなります。  
軽く踏み込むと、ぬうスピードはゆっくりで  
す。  
ペダルをはなすとストップします。



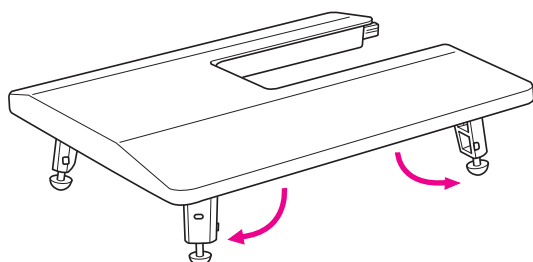
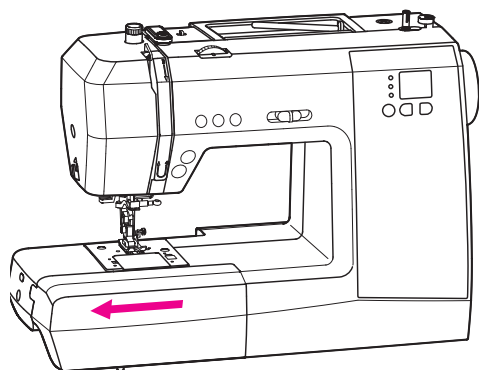
フットコントローラーを取り付けているとき  
ミシン本体にあるスピードコントロールつま  
みは、最高スピードを調節します。  
速くしたいときは、右にしてください。

# ワイドテーブル（別売品）

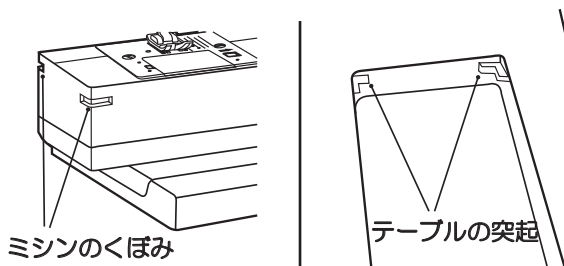
ワイドテーブルを装着すると、手元が広くなり、洋服などの大物がぬいやすくなります。

## ❖ 取り付け方

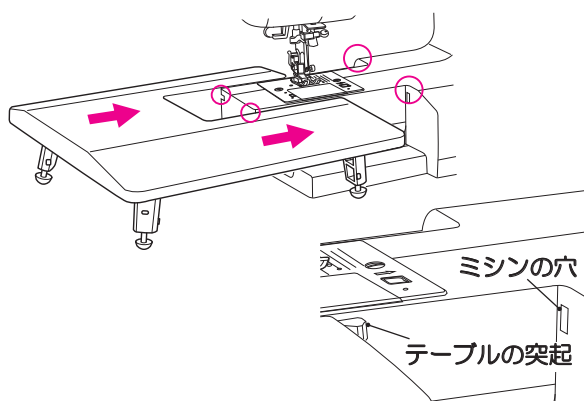
ミシンの補助ベッドを左方向へ引いて取り外します。



ワイドテーブルの脚を、3カ所立てます。



ミシンのくぼみに、テーブルの内側の突起を合わせます。



そのまま、左から水平に押し込み、前後の穴に、テーブルの突起を合わせて取り付けます。

※ 突起が穴に入りにくい時には、ミシンを軽く持ち上げてください。

# 故障かな・・・というときは

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてください。

※ 糸調子が合わない原因は、糸かけやボビンのセットが誤っていることがほとんどです。

一旦、上下糸を取り外し、正しくセットし直してください。(5 ページ～ 12 ページ参照)

現象	原因	処置方法	参照ページ
ミシンが動かない	○ 電源が入っていない	電源を入れます	3
	○ スタート・ストップボタンを押していない	スタート・ストップボタンを押します	18
	○ フットコントローラーが取り付けられている	コントローラーで操作するか、コントローラーをはずします	51
	○ 糸巻き軸が右へ押されている	左へもどします	7
	○ かまに糸やゴミがたまっている	糸やゴミを取りのぞきます	49
布地が縮む	○ 上糸調子が強すぎる	適正な強さに調整します	17
	○ 上糸の掛け方が違っていたり、余分な箇所にはっかかっている	正しく掛け直します	9
	○ 布地に対してぬい目の長さが長すぎる	適正な長さにセットします	21
ぬい目に輪ができる 針が折れる	○ 上糸、下糸の調子が合っていない	適正な強さに調整します	17
	○ 細い針で厚地をぬったり、細い針に太い糸を使ったとき	布地に合った針や糸を使います	14
	○ 針の取りつけかたが悪かったり、曲がった針を使用したとき	正しくつけ直します	13
	○ 布地を無理にひっぱったとき	手は布地にそえるだけにします	28
	○ 針が正しく取り付けられていない	針を正しく取り付けます	13
	○ 模様に対し押えが合っていない	模様にあった押えを取りつけます	-
布地を送らない	○ ぬい目の長さが布地に合っていない	ぬい目の長さをセットし直します	21
	○ 針が曲がっていたり、針先がつぶれている	針を取り替えます	13
	○ 針が糸の太さと合っていない	布地に合った針や糸を使います	14
	○ 上糸の掛け方が違っている	正しく掛け直します	9

現象	原因	処置方法	参照ページ
ぬい目がとぶ	○ 針が正しく取り付けられていない	針を正しく取り付けます	13
	○ 針板の下に糸くずがからまっている	掃除します	49
	○ 針と布や糸の素材が合っていない	布地に合った針や糸を使います	14
	○ 上糸の掛け方が違う	正しく掛け直します	9
	○ 針が曲がっていたり、先端がつぶれている	針を取り替えます	13
上糸が切れる	○ 針が糸の太さと合っていない	布地に合った針や糸を使います	14
	○ 上糸調子が強すぎる	適正な強さに調節します	17
	○ 針が正しく取り付けられていない	針を正しく取り付けます	13
	○ 糸が必要以外のところからみついている	糸を掛け直します	9
下糸が切れる	○ ボビンのセットが間違っている	正しくセットし直します	8
	○ かまの中で下糸がからみあっている	からんだ糸をとりのぞきます	49
ボビンに糸が巻けない	○ ボビンが下糸巻き軸に完全にさしこまれていない	完全に差込みます	6



## ■アフターサービスと保証

- この装置には保証書がついています。
- 保証書は、お買い上げのお店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げの日から1年間です。ただし内蔵されているマイコン・メイン基板は2年間です。
- 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。  
(保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。)
- この装置は日本国内専用機種ですので、海外でのご使用はできません。また、海外での保証、アフターサービスは受けることができません。
- 保証期間経過後の修理につきましては、お買い上げのお店にご相談ください。  
当社は、この装置の補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

## ■仕様表

項目	仕様
型式	HZL-HT720
定格電圧	100V
消費電力	45W
周波数	50 / 60Hz
寸法	幅 425mm × 奥行 170mm × 高さ 300mm
重量	5.9kg (本体のみ)

# JUKI

JUKI株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧 2-11-1

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、お買い上げのお店、または下記のお客様相談室へお問い合わせください。

フリーダイヤル

☎ 0120-677-601

年末年始・夏季休暇・祝祭日を除く

平日(月～金) 9:00～12:00、13:00～17:00

Copyright © 2024 JUKI CORPORATION

本書の内容を無断で転載、複写することを禁止します。

購入店名 後日のために記入しておいてください。  
サービスを依頼されるときお役に立ちます。

電話 (       -       -       )

購入年月日：       年       月       日